ILLUSTRATIONS OF JAPANESE FUNGI

PUBLISHED BY

THE BUREAU OF FORESTRY

OF

THE DEPARTMENT OF AGRICULTURE AND COMMERCE

日本菌類圖譜

第一集

農商務省山林局

明治四十五年三月二十六日印刷
明治四十五年三月三十一日發行

農商務省山林局

印刷者 東京市神田區通新石町三番地 田中市之助

印刷所 東京市神田區通新石町三番地 東陽堂

發賣所 東京市神田區通新石町三番地 東陽堂

電話(本局九七〇)

本圖譜ハ本邦各地方ノ山野ニ自生スル普通ノ蕈菌類凡ソ三百餘種ヲ圖説スルモノニシテ今回發行シタル第一集ニハ其ノ三十八種ヲ擧ケタリ。

本第一集ハ林務技師川村清一編著ノ任ニ當リ主トシテ原圖竝ニ解説ヲ作製シ農商務屬大石榮雄圖畫ノ描寫ニ從事セリ。

ILLUSTRATIONS OF JAPANESE FUNGI

PUBLISHED BY

THE BUREAU OF FORESTRY

OF

THE DEPARTMENT OF AGRICULTURE AND COMMERCE

日本菌類圖譜

第一集

農商務省山林局

凡　例

一　各菌の性質をして一目瞭然たらしめんが爲次に記す四個の記號を造りて學名の後に附せり。

　○は普通食用に供するものを示す。

　◉は通例食用となし居らざるもの、故に此中には食用となして可なるもの或は從來中毒の實例を知らざるが爲本來有毒なるも未だ其の性狀を詳にせざるもの等を含む。

　×は有毒菌を示す。

　△は其質食用となすに適するもの或は惡臭を有するが爲古來有毒菌と見做され居るものを示す。

此他森林樹木の害菌、醫藥として用ゐらるゝもの、工藝用に供せらるゝもの等の記號は記號の種類多きに過ぎて徒に繁雜となるを懼れ之を省けり。

一　圖版は余が自ら實物を寫生して作れる原圖中より特に縱斷面圖一個と外形圖一、二個とを採りて配列したるものにして可成自然大となすに勉めたれども特に巨大なるものは幾分か縮小せり、

一　菌類の和名は可成現今各地にて用ゐつゝあるものを採用し近來外國名或は學名を飜譯して作りたる名稱の如きは我國に固有の名稱なきものゝ外は之れを採らず例へば Amanita pantherina Dc. なる菌は曩に豹茸と譯せられ既に各種の植物書に用ゐられ居る所なれども本菌には古來天狗茸又は蠅取茸なる名稱ありて一般に用ゐつゝあるが故に豹茸なる譯名は實用上甚だ不便なるものなり嘗て或縣に於て縣下小學校教科書を編輯したる際毒菌の一として豹茸を擧げたるに教員生徒共に之れが同縣下に最も普通なる蠅取茸なることを知らざりしと云ふが如きは最初豹茸なる新和名を用ゐたる人が從來廣く用ゐられたる和名のあるに注意せざりし罪なりと云はざる可からず、故に余は可成在來の名稱を用ゐるに勉めたり、然れども其不確實なるもの或は全く一定の名稱なきものは止むを得ず新に名稱を附せり。

一　菌體部分の名稱に葢、莖、褶、鍔、壺等の語を用ゐたるものは吳蕈譜に據りたるものにして決して余が始めて用ゐたるものに非ず、坂本氏菌譜を初め古き菌類書殆んど皆此名稱を用ゐたり。

PREFACE.

Japan, being a country extending from the tropical to the subarctic regions, has a large number of fungi, some well-known as good, edible species, other as fatally poisonous. But there has been published no good description of these fungi though the want of it has long been recognised. A constant demand for just such illustrative material has led me to sketch from nature, all of the Japanese fungi. In accordance with a suggestion from the Bureau of Forestry I have selected some of these drawings, and have assigned them for publication. If this volume helps to afford a better realization of the necessity of faithful study of our fungi, and a more thorough acquaintance with the distinctions between them, the aim of the author will be reached. I regret, however, that the number of the figures has been restricted to a few, only one or two for each species, and also that some inevitable modification of the natural colour has been introduced while being subjected to printing.

Seiichi Kawamura　　March, 1911.

Signs used in this volume.

○.........Edible fungi.

◉.........Fungi, not used for food.

×.........Poisonous fungi.

△.........Fungi distastefull or considered as poisonous.

序　言

我邦域は蜿蜒として長く寒、温、熱の各帶に跨がり氣候亦濕潤なるが故に各種の植物を產し就中菌類の如きは其の產出最も豐富なりとす或は木質にして樹木若くは用材に寄着して多大の害を釀すものあり或は肉質にして美味、吾人の食用に供せらるゝものあり或は性猛毒にして誤り喰ふ者をして中毒せしむるもの等苟も世界各地に產する菌類中普通の種類は殆んと皆之を產せざるなく而も松茸、占地茸、月夜茸の如く本邦特有の種屬亦尠とせず。故に之等本邦產菌類に就き正確なる研究を遂げ其の形狀性質等を示し各種の異同を明かにするは啻に植物學上學者の責務たるのみならず之と密接の關係を有する山林、土木、衞生等各方面の研究並應用に緊要なる資料を與へ又廣く國民一般の天然物に對する智識の普及上貢獻すること鮮少ならざるべし。然れども從來我邦の菌類殊に蕈菌類に就ては充分に研究せられたることなく從て未だ之に關する確實なる著述を見ず古き圖說類には坂本氏の菌譜、市岡氏の信陽菌譜、松岡氏の怡顏齋菌品等の書あり岩崎氏も亦本草圖譜中菌類の圖說を揭げ又最近に至り二三の著述なきにしもあらざるも之等の書は其の圖示する所甚だ粗雜にして記する所も亦極めて簡單なること到底他の草木類の圖說と日を同くして談ずる能はざるなり。殊に蕈菌類は其の性質上採集貯藏に甚だ困難なるが爲古き圖說類には半ば想像に依りたるもの多く、又其の實物に就て圖寫したるものは昔時實物描寫の發達せざりし時代に於ける一般の弊として其の筆力に於て勝れるところありと雖其外形、色彩に於て今日の如く完全を期し難し。加ふるに昔時は菌類の各種を區別するに漠然たる外形を以てし現今菌類上必ず觀察を要するものとなすところの蓋莖又は莖裥の關係等解剖的の觀察をなしたるものなし。從て各種相互の區別は元より屬科の差別さへ知る能はず甚しきに至りては擔子菌門に屬すべきや將た子囊菌門に入るべきやも辨ずる能はざるものあり。之れ顯微鏡の無かりし時代にありては止を得ざりしと雖、キムラタケ　ユウレイタケの如き今日は顯花植物として菌類とは最も隔絕せる位置に置かるゝ植物にして其の名の茸なるが爲菌類と混同せる等昔時に於ける菌類學の智識が如何に幼稚なりしかを知るに足るべし。

余は東京理科大學卒業後直に大學院に入りて高等菌類學を專攻するに當り古來の菌類書を基礎として研究するの危險を悟りたれば自ら各地を旅行して採集し、各種に就て可及的叮嚀に彩色寫生をなし附するに記載を以てし、又其の緻密なる特徵を有して到底筆の及ばざるものは寫眞に製し其名稱、性質に就ても根本的に調査したる結果是等の寫生圖、寫眞等漸く積で其數を增したるは一方學術上に於て之を發表すると同時に又一方に於ては一般に適する著述を以て菌類に對する智識の普及せんことを望めり。

然り而して菌類は其の形態草木の類の如く複雜ならざるが故に多數の菌類を說明し其の異同を辨せんとするに當り分類上準據するものに乏しき不便あり。故に今一菌に就て記載せんとする時には蓋、莖、裥、鍔、壺等の形狀、色澤相互の關係等を可成詳細に觀察す可きは勿論更に子實層、胞子の形狀、色彩、大さ等に就ても顯微鏡的觀察を要し就中蓋、莖の色彩は菌類の分類上最緊要なるものなり。即ち一般草木類の分類にありては其の花の紅白黃紫の差別は分類上常に深く注意せざるも菌類にありては其の色彩は各種の特徵として分類上最も注意せざる可からず。然るに吾人が言語、文章等に表はし得る色彩の種類は甚だ僅少にして萬樣の色彩を正確に表明せんことは殆んど不可能なり。曩に伊太利の菌類學者「サッカード」氏は研究の必要より各種の色彩五十種を選びて色刷となし數箇の國語に對譯せる名稱を附したる一冊子を作り世界の菌類學者に向つて色彩の名稱標準を示したりと雖數限りなき色の種類を僅々五十箇の名稱を以て盡く表示せんとするは甚だ難事にして寧ろ色彩圖を以て表示するの捷徑なるに如かざるなり。故に余が研究の結果を發表するに當ては學術上其の新種に屬するものは附するに精細なる彩色圖を以てせんことを努むるの外一般に適する著述として第一に彩色圖譜を作るを以て最も適當なりと思考したりしが幸にして余は農商務省の命にを以て一譜著作の任に當りたるを以て平素の寫生圖中より適宜のもの凡そ十種づゝを選びて一圖版中に納め其の數枚より本圖集となし發表するに至れり。

原稿圖製作の際複寫は農商務屬大石榮雄君專ら之れに任し氏が緻密なる筆を以て熱心に原圖の儘を寫すに勉められたる結果余が作製せる原圖を石版印刷と爲すに至る迄前後三回の人工の加はりたるにも拘らず之れを實物に對照して菌種を鑑定せんとするに何等の不便を感せざるの結果を得たるは余の深く同君に感謝する所なり。

又本菌類圖譜編著に關しては農商務省林務技師林學博士白澤保美氏が終始盡力せられたる所にして今玆に之を公にするを得たるは全く氏の賜なり特に記して感謝の意を表す。

明治四十五年三月三十一日　　　　林務技師　川村清一

Tab.1. 第一版



1-3, *Russula fragilis Fr.* ⊙ ---------- こべにたけ、

4-6, *Russula fragilis Fr. var. nivea Pers.* ⊙ ---------- しろのこべにたけ、

7-9, *Russula emetica Fr.* × ---------- どくべにたけ、

10-13, *Russula purpurea Fr.* ○ ---------- むらさきはつだけ、

14-16, *Russula virescens Fr.* ○ ---------- あをたけ、

17-19, *Cantharellus minor Peck.* ⊙ ---------- こあんずたけ、

20-23, *Ithyphallus impudicus Fr.* ⌘ ---------- すつぽんたけ、

24-26, *Hypholoma sublateritium Schaeff.* ○ ---------- くりたけ、

27-29, *Hygrophorus miniatus Fr.* ⊙ ---------- あかぬまべにたけ、

30-32, *Hygrophorus Wynniae B. et Br.* ⊙ ---------- みどりたけ、

33-35, *Clitocybe obbata Fr.* ⊙ ---------- くろさかづきたけ、

ILLUSTRATIONS OF JAPANESE FUNGI

EXPLANATIONS OF PLATE I

(1) Figs. 1—3. **Russula fragilis** *Fr.* Jap. nam. *Ko-benitake.*

Pileus typically red but very much variable sometimes almost white after long rain, convex then plane and depressed, sometimes umbonate, pellicle thin and viscid when moist; gills slightly adnexed, pure white.

---

(2) Figs. 4—6. **Russula fragilis** *Fr.* **var nivea** *Pers.* Jap. nam. *Shironokobenitake.*

Size and habit of this plant, quite equal to the type form, but every part white from the earliest stage.

---

(3) Figs. 7—9. **Russula emetica** *Fr.* Jap. nam. *Dokubenitake.*

A most common poisonous Russula; pileus rosy then blood-red, but white after rain, campanulate then expanded sometimes depressed, always polished.

---

(4) Figs. 10—13. **Russula purpurea** *gill.* Jap. nam. *Murasakihatsudake.*

Pellicle of the pileus purple in colour, campanulate, then plane, at length depressed in the center, viscid when met, not striate often split.

---

(5) Figs. 14—16. **Russula virescens** *Fr.* Jap. nam. *Aitake.*

Pileus grayish-green, convex, then depressed at the center, adorned with flaky greenish patches; flesh always snowy white, and taste mild; gills white, close, free or nearly so; stem white smooth, and solid or spongy within.

---

(6) Figs. 17—19. **Cantharellus minor** *Peck.* Jap. nam. *Ko-Anzutake.*

Pileus rich egg-yellow, flat at first then depressed in the center, finally funnel-shaped flesh very thin but firm; being its margin often wavy, irregular in form; grows abundantly in lawn, often companied with Russula fragilis Fr.

---

(7) Figs. 20—23. **Ithyphallus impudicus** *Fr.* Jap. nam. *Suppontake.*

Pileus conical, reticulated, and covered with an olive-green very strong smelling gluten in which the spores are immersed; stem cyrindrical, tapering upward, cellulose, white.

This fungus is thought to be poisonous, but there is no one who has extracted any poisonous ingredient from this plant.

---

(8) Figs. 24—26. **Hypholoma sublateritum** *Schaeff.* Jap. nam. *Kuritake.*

Pileus brick-red or yellowish red, convex then expanded; flesh creamy, firm, and sometimes bitter but usually not; gills pale brawn when old; adnate to the stem; stem yellowish, lower part slightly tinged with red, hollow or stuffed.

---

(9) Figs. 27—29. **Hygrophorus miniatus** *Fr.* Jap. nam. *Akanumabenitake.*

A very attractive fungus by its brilliant red colour; pileus convex, glabrous, very beautiful crimson red, gills yellew, adnate, distant; stem long, glabrous, crimson red; grows among grass in pastures, from summer to autumn.

---

(10) Figs. 30—32. **Hygrophorus Wynniae** *B. et. Br.* Jap. nam. *midoritake.*

This is quite equal in form and habit to Hygrophorous miniatus Fr., but the colour of this species is lemon-yellow when young, greenish when dry.

---

(11) Figs. 33—35. **Clitocybe obbata** *Fr.* Jap. nam. *Kurosakazukitake.*

Pileus infundibuliform, blackish; gills decurrent, at first dark grey then powdered with white; stem, glabrous, greyishbrown, hollow.

(*S. Kawamura.*)

日本菌類圖譜

第一圖版解說

(1) Figs. 1—3. (和名) **こべにたけ** (學名) **Russula fragilis** *Fr.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—褶菌科.

蓋の表皮は普通鮮美なる赤色を呈すれども降雨永く續きたる後には其色を失ふ事あり。褶並に莖は常に雪白なれども莖の表面往々淡紅色を帶べり。質脆く莖の基部を持て縱に裂かんとするも完全に兩分し難し。世俗は本菌の外「どくべにたけ」其他類似の諸菌を混同して總て「べにたけ」と呼べり。

---

(2) Figs. 4—6. (和名) **しろのこべにたけ** (學名) **Russula fragilis** *Fr.* **var. nivea** *Pers.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—褶菌科.

本菌は其形狀性質總て酷く「こべにたけ」に似たり唯初より白色なるの差異あり。「こべにたけ」と共に梅雨の候に發生し濕へるときは蓋の表面常に粘性あり。世俗中本菌を「しろはつだけ」と呼ぶものあるに由り余は曩に本菌の和名として其名を用ゐたることありしも他に「はつだけ」屬の食菌にして白色なる「しろはつだけ」なるものありて本菌と混同する虞あれば茲に本菌の和名を更に「しろのこべにたけ」と改むることゝせり。

---

(3) Figs. 7—9. (和名) **どくべにたけ** (學名) **Russula emetica** *Fr.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—褶菌科.

「こべにたけ」に比して形大。褶疎なり。味辛し。蓋の表皮は鮮紅色にして乾きたるときは暗赤色を呈す。其色素は水に溶け易きが故に降雨に逢ひ蓋の一部分或は全部褪色することあり。其性有毒誤食し中毒する者尠からず。

---

(4) Figs. 10—13. (和名) **むらさきべにたけ** (學名) **Russula purpurea** *Schröt.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—褶菌科.

本菌は其形狀「どくべにたけ」に類し蓋闇紫色を呈し。質脆く。味辛からず。毒性なし。採りて食用に供す。

---

(5) Figs. 14—16. (和名) **あゐたけ** (學名) **Russula virescens** *Fr.*

蓋の表面常に綠色を呈せり。其綠色なる表皮は往々細かに分裂して散在せり。常に毒性なし。採りて食用に供す。夏季七八月の候多く山林に生ず。其質脆弱肉純白なり。

---

(6) Figs. 17—19. (和名) **こあんずたけ** (學名) **Cantharellus minor** *Peck.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—褶菌科.

本菌は「あんずたけ」に似て形常に小。蓋は徑四分乃至八分。褶は莖に垂生し厚くして狹く往々分岐せり。褶莖共に蓋より稍々淡き黃色を呈す。初夏梅雨の季節に多く群生す。

---

(7) Figs. 20—23. (和名) **すつぽんたけ** (學名) **Ithyphallus impudicus** *Fr.*

(所屬) 擔子菌門—腹菌族—鼈茸科.

本菌は其幼時にありては球狀にして蓋莖となるべき部分を其內に包藏す。成熟するに及ばゝ莖は伸長し其壓力に依り蓋の尖端部を以て內外二膜を破り其間に存する粘液の流出により莖は蓋を載きたる儘滑かに延び出で凡そ三寸の丈に達す。蓋は鐘狀を呈し胞子は蓋の表面粘液中に存す。粘液は惡臭を有するが故に本菌は人の最も嫌壓する所たり。

---

(8) Figs. 24—26. (和名) **くりたけ** (學名) **Hypholoma sublateritium** *Schaeff.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—褶菌科.

蓋は煉瓦に似たる赤褐色を呈し徑二寸前後を普通とし。莖黃色。下部は蓋と同色にして莖の中央部には膜の痕跡赤褐色を呈して存す。秋季栗楢等の朽木に多數叢生す。一般に食用に供す。

---

(9) Figs. 27—27. (和名) **あかぬまべにたけ** (學名) **Hygrophorus miniatus** *Fr.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—褶菌科.

蓋は徑三分乃至五分許の小菌なれども燃るが如き紅色を呈せるを以て人目に觸れ易し。蓋は圓錐狀。半透明質にして光澤ある鮮紅色を呈し莖赤紅色なり。夏季より秋季に亘り濕潤なる原野に發生す。

---

(10) Figs. 30—32. (和名) **みどりたけ** (學名) **Hygrophorus Wynniae** *B. et Br.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—褶菌科.

本菌は其形狀性質「あかぬまべにたけ」に類せる小菌にして質半透明,蓋莖共に初め萌黃色にして後綠色を呈す。濕潤なる原野に生す。

---

(11) Figs. 33—35. (和名) **くろさかづきたけ** (學名) **Clitocybe obbata** *Fr.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—潤菌科.

蓋は黑褐色にして徑六分乃至一寸常に漏斗狀を呈し。表面光澤あり褶は莖に垂生し初め暗灰色後白色の細粉を帶ぶ莖長く灰褐色にして光澤あり。常に針葉樹林に生ず。



1-3, *Amanita virosa* Fr. × ------------------------ どくつるたけ、
4-5, *Geaster triplex* Jungh. △ ------------------------ ゑりまきつちぐり、
6-9, *Geaster hygrometricus* Pers. △ ------------------------ つちぐり、
10-13, *Polyporus volvatus* Peck. △ ------------------------ ひとくちたけ、
14-18 *Amanita muscaria* L. × ------------------------ (あかはいとりたけ) (べにてんぐたけ) あしたかべにたけ、
19-24, *Spathularia clavata* Sacc. ⊙ ------------------------ へらたけ、
25-28, *Boletus luridus* Schaeff. × ------------------------ いろがわり、
29-31, *Geaster Schmidelii* Vittad. △ ------------------------ ひめつちぐり、
32-33, *Geaster rufescens* Pers. △ ------------------------ やぶれつちぐり、

ILLUSTRATIONS OF JAPANESE FUNGI

EXPLANATIONS OF PLATE II

(1) Figs. 1—3. **Amanaita virosa** *Fr.* Jap. nam. *Dokutsurutake.*

A very poisonous fungus; pileus at first conical then expanded viscid when moist, shinning when dry; gills free, ring soft, membranaceus, attached near the apex; volva, large.

---

(2) Figs 4—5. **Geaster triplex** *Jungh.* Jap. nam. *Erimakitsuchiguri.*

Unexpanded plant subglobose but accute at the top; mouth conical fibrillose; fleshy layer of the outer peridium generally peel off from the segmental portions remaining attached under the inner peridium as a cup.

---

(3) Figs. 6—9. **Geaster hygrometricus** *Pers.* Jap. nam. *Tsuchiguri* (*Tsuchigaki*).

Unexpanded plant globose; fibrillose layer of the experidium thick, rigid, strongly hygroscopic, innerperidium globose, thin; mouth simply torn aperture. Being very much hygroscopic the segments of exoperidium becomes reflexed in rainy weather and curl up when dry.

---

(4) Figs. 10—19. **Polyporus volvatus** *Pk.* Jap. nam. *Hitokuchitake.*

Pileus somewhat round; the cuticle of the pileus envelopes the entire pore-surface remaining a round hole on it; glows on dead pine usually, sessile or somtimes stalked.

---

(5) Figs. 14—18. **Amanita muscaria** *Fr.* Jap. nam. *Akahaitoridake.*

Pileus globose then plane, pellicle viscid, usually briliant red sometimes orange, covered with regularly scattered, white warts; flesh white; gills, free, white; stem, straight, stuffed, then hollow, base bulbous.

---

(6) Figs. 19—24. **Spathularia clavata** *Spacc.* Jap. nam. *Heratake.*

Head glabrous, depressed laterally, spathulate, yellowish, running down the stem for some distance on opposite sides; stem slight yellowish; Entire plant very soft and fleshy.

---

(7) Figs. 25—28. **Boletus luridus** *Schaeff.* Jap. nam. *Irogawari.*

Pileus convex, generally dingy-brown, flesh very thick, changes rapidly into indigo-brue when broken tubes greenish olive, openings reddish coloured.

(8) Figs. 29—31. **Geaster Schmidelii** *Vittad.* Jap. nam. *Himetsuchiguri.*

Exoperidium rather thin, cut to usually five to seven segments; innerperidium with a short pedicel, mouth conical, sulcate, columella large ovate.

---

(9) Figs. 32—33. **Geaster rufescens.** *Pers.* Jap. nam. *Yaburetsuchiguri.*

Exoperidium rather thin fleshy layer thick, cracked as a rough brocken leather; innerperidium usually sessile or with a thick stipe; mouth indefinite, torn.

(*S. Kawamura.*)

日　本　菌　類　圖　譜

第　二　圖　版　解　說

(1) Figs. 1—3. (和名) **どくつるたけ** (學名) **Amanita virosa** *Fr.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—鵝菌科.

蓋は其色白く中央部のみ少しく淡黃色を帶ぶ。濕へるときは粘性强し。莖の上部に薄膜狀の鍔を具へ基部に袋狀の壺を有す。本菌は其性猛毒なり。外觀「つるたけ」の一種白色なるものに酷似すれども「つるたけ」の類は常に莖に鍔を有せざるを以て明かに之れと區別することを得べし。

---

(2) Figs. 4—5. (和名) **ゑりまきつちぐり** (學名) **Geaster triplex** *Jungl.*

(所屬) 擔子菌門—腹菌族—土栗科.

外皮の未だ裂開せざるものは球狀にして上部圓錐狀をなせり。胞子成熟するに及ばゝ外皮は突起部の尖端より基底部に向つて裂け五乃至八個の裂片となりて下方に反り返へり內面を外に向け尖端にて爪立ち內皮を露出す。本菌に於ては外皮の肉質層頗る厚く裂片の部分にありては剝離し去るも中央部にては肥厚せる肉質の儘一分部纖維層より分離し椀狀を呈して殘存す。

---

(3) Figs. 6—9. (和名) **つちぐり**又ハ**つちかき** (學名) **Geaster hygrometricus** *Pers.*

(所屬) 擔子菌門—腹菌族—土栗科.

本菌は「つちぐり」類中最も普通なるものなり。未裂開のものは球狀をなす。外皮の纖維層厚く且つ强靱にして吸濕性に富む。外皮は六乃至十二個の裂片となり。濕ひたるときは地上に爪立ち乾燥するときは內方に强く卷き縮まり塊狀に變ず。

---

(4) Figs. 8—13. (和名) **ひとくちたけ** (學名) **Polyporus volvatus** *Pk.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—多孔菌科.

形及び大さ略々蛤に似たる木質の小菌なり。一般の「さるのこしかけ」類の如く常に樹木に寄生し蓋の一側に小莖を有して水平に生せり。又往々全く無莖のものあり。本菌には特に蓋の表皮に連續せる厚き膜狀のものありて管孔面の外部に空室を隔てゝ之を被へり。故に管孔は直接外部より觀ること能はず只其膜中に徑一二分の小孔を有して外界と通せり。

---

(5) Figs. 14—18. (和名) **あかはいとりたけ**又ハ**べにてんぐたけ** (學名) **Amanita muscaria** *Fr.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—鵝菌科.

本菌は「てんぐたけ」に形酷似し唯蓋の表面鮮美なる紅色又は橙黃色を呈するを以て區別せらる。本邦各地に產し「べにてんぐたけ」或は「あかはいとりたけ」と呼べり。其性猛毒なれども色餘りに毒々しければ人々恐れて食ふもの稀なり從つて中毒者を生すること少し。然れども「たまごたけ」と稱する食用菌は本菌に似たるを以て注意せざれば混同することあるべし。

---

(6) Figs. 19—24. (和名) **へらたけ** (學名) **Spathularia clavara** *Sacc.*

(所屬) 子囊菌門—盤菌族—天狗のめしがひ科.

全體柔軟且つ滑にして淡黃色頭部は杓子の如く丸くして扁平。本菌は子囊菌類に屬するが故に胞子は常に子囊の中に造らる。子囊は棍棒狀にして八個の無色にして線狀なる胞子を藏す。子囊の外部に存する側線は單に線狀を成すに止らず尖端數枝に分岐せり。

---

(7) Figs. 25—28. (和名) **いろがはり** (學名) **Boletus luridus** *Schaeff.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—多孔菌科.

「あはたけ」「あみたけ」等と同屬の菌にして子實層は管狀をなす。蓋の表面は暗褐色 管孔面は褐赤色を呈せり。肉は黃色なれども空氣に觸るゝときは酸化して忽ち青藍色に變ずる特性あり。本菌は其性有毒にして往々誤食して中毒するものあり。

---

(8) Figs. 29—31. (和名) **ひめつちぐり** (學名) **Geaster Schmidelii** *Vittad.*

(所屬) 擔子菌門—腹菌族—土栗科.

「つちぐり」類中最も小なるものなり。外皮は薄く五六の裂片となりて開展す。內皮は球狀にして頂に圓錐形の突起あり。小孔其尖端に開口す。

---

(9) Figs. 32—33. (和名) **やぶれつちぐり** (學名) **Geaster rufescens** *Pers.*

(所屬) 擔子菌門—腹菌族—土栗科.

外皮は七乃至九個の形不規則なる裂片に分かれ。球狀なる內皮の頂端には一定せる孔を造らずして常に不規則に破れたる裂口を生ず。



1-4, *Collybia radicata* Rehl. ○ ······ つゑたけ、
5-7, *Boletus bovinus* L. ○ ······ あみたけ、
8-11, *Cantharellus cibarius* Fr. ○ ······ あんずたけ、
12-13, *Clavaria inaequalis* Mull. ○ ······ きろうめんたけ、
14-17, *Amanitopsis vaginata* Roze. ○ ······ つるたけ、
18-22, *Coprinus comatus* Fr. ⊙ ······ ささくれひとよたけ、
23-25, *Cantharellus floccosus* Schw. ○ ······ うすたけ、
26-29, *Polystictus flabelliformis* Klotzch. △ ······ うちはたけ、

ILLUSTRATIONS OF JAPANESE FUNGI

EXPLANATIONS OF PLATE III

(1) Figs. 1—4. **Collybia radicata** *Rehl.* Jap. nam. *Tsuetake.*

Pileus flesh rather thin, expanded then umbonate, viscid when moist; gills adnexed, often with a decurrent tooth; stem same colour as the pileus though paler, usually white above, Cartilaginous cuticle often twisted, base fusiformly rooting. This species may be easily recognised by the character of its viscid, rugulose pileus and its long slender root, generally penetrating the earth to a depth.

---

(2) Figs. 5—7 **Boletus bovinus** *L.* Jap. Nam. *Amitake.*

Pileus convex then almost plane, pale reddish-yellow, glabrous, viscid, flesh yellowish white, unchangeable; openings of tubes subangular, often elongated radially; stem even, coloured like pileus.

---

(3) Figs. 8—11. **Cantharellus cibarius** *Fr.* Jap. Nam. *Anzutake.*

Every part yolk-of-egg colour. Pileus irregular, subrepand; gills decurrent, narrow, having veins; branching dichotomously; stem firm, solid; odour, like that of dried apricots.

---

(4) Figs. 12—13 **Clavaria inaequalis** *Mull.* Jap. Nam. *Kisōmentake.*

Entire plant egg-yellow, smooth, firm, caespitose. It is found in clusters in woods and pastures in early autumn.

---

(5) Figs. 14—17. **Amanitopsis vaginata** *Roze.* Jap. Nam. *Tsurutake.*

Pileus bell-shaped, then expanded, smooth, often with fragments of the volva margin deeply striated, gills white, free from the stem; stem cylindrical, tapering upward, hollow or stuffed ringless volva entirely free from the stem, except at the base.

---

(6) Figs. 18—22. **Coprinus comatus** *Fr.* Jap. Nam *Sasakure-hitoyotake*

Pileus cylindrical when young, then campanulate whitish, scale, pale ochraceous, stem white, even, hollow, bulbous. The colour of the gills becomes black and then begins to melt into a black fluid. They occur most abundantly during summer and autumn, often making a fairly ring.

---

(7) Figs. 23—25. **Cantharellus floccosus** *Schw.* Jap. Nam. *Usutake.*

Entire plant funnel-shaped, floccose-squamose, ochraceous-yellow; gills vein like, long decurrent on the stem. Grows in mossy woods during July to October.

---

(8) Figs. 26—29. **Polystictus flabelliformis** *Klozch.* Jap. Nam. *Uchiwa-take.*

Pileus horizontal, rather thin, coriaceous, flat slightly depressed behind, smooth; pores very short, minute, white, then buff; stem blak, polished, as if vanished. Grows on trunks. (*S. Kawamura.*)

日本菌類圖譜

第三圖版解說

(1) Figs. 1—4. (和名) **つゑたけ** (學名) **Collybia radicata** *Rehl.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—襵菌科

蓋は肉薄く。表皮黃褐色にして濕へるときには粘性あり。扁平にして中央部少しく突起せるを普通とす。襵は幅廣く常に白色なり。莖は其下部特に膨大し更に一本の細き根に連りて深く地中に入れり。「つゑたけ」と稱するは其の根の長きに因りたるなるべし。夏秋の候多く竹林中に生ず。元來無毒なれば採りて食用となすことを得。

---

(2) Figs. 5—7. (和名) **あみたけ** (學名) **Boletus bovinus** *L.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—多孔菌科.

蓋は初め半球狀後開展して殆んど扁平となる。表皮は橙黃褐色にして光澤あり。濕へるときは粘性あり。蓋の下面子實層は黃色,管は太くして短かく,其孔邊多角形を呈す,外觀網目に似たり,故に此名あり。

---

(3) Figs. 8—11. (和名) **あんずたけ** (學名) **Cantharellus cibarius** *Fr.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—襵菌科.

蓋,莖,襵共に黃色なり。襵は厚くして幅狹く,莖に沿うて下に走れり。夏季山地に發生す。獨逸國にては「アイエルピルツ」と稱へ玉子茸の義を以て呼べり,故に間々之を「たまごたけ」なる名にて呼ぶものあれど宜しからず。我邦にて「たまごたけ」と稱するものは天狗茸屬の一種たる食用菌にして,本菌は特に「あんずたけ」と稱せり。

---

(4) Figs. 2—13. (和名) **きそうめんたけ** (學名) **Clavaria inaequalis** *Mull.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—箒茸科.

細長き棍棒狀をなし常に多數集合して發生す。全體鮮黃にして一見毒々しきも性無毒なれば食用に供すべし。八月より十月に至る間各地の山林中に生ず。一に「きせんかうたけ」とも稱す。

---

(5) Figs. 14—17. (和名) **つるたけ** (學名) **Amanitopsis vaginata** *Roze.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—襵菌科.

蓋は鼠色なるを普通とし,周邊に放射狀に淺き襵襞を有す。襵は白色にして蓋に離生せり。莖は中空にして鍔を缺けり。壺は袋狀をなし最下部の他は莖に離れたり。各地山野に生ず,採りて食用とせる者あり。然れども本菌に似て莖に鍔を有するものに猛毒なる種類あれば採集の際注意を要す。

---

(6) Figs. 18—22. (和名) **さゝくれひとよだけ** (學名) **Coprinus comatus.** *Fr.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—襵菌科.

幼稚なるものにありては蓋圓筒狀をなし,莖は其中央に包まれ深く蓋の表皮下に達せり。蓋は著しき鱗被を有す,鐘狀或は圓錐狀に開くも扁平に開展することなし。襵は胞子の熟したる後は黑色に變じ次で溶解して黑液を滴下するに至る。本屬の諸菌は總て其質甚だ脆く,生長速かなると共に消滅することも亦早し。之れ「ひとよだけ」の名ある所以なり。然して本菌は蓋の鱗被の著甚なる特徵により其名を「さゝくれひとよだけ」とは命じたり。

---

(7) Figs. 23—25. (和名) **うすたけ** (學名) **Cantharellus floccosus** *Schw.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—襵菌科.

形常に漏斗狀をなし,蓋は粗鬆にして赭褐色なり。濕潤なるときは漏斗の底に粘液を存す,襵は厚くして狹く往々分岐し莖に向つて長く垂生せり。夏秋の候本邦各地の山野に生ず。採集後日光に干して貯へ煮て食用となす。

---

(8) Fig. 26—29. (和名) **うちはたけ** (學名) **Polystictus flabelliformis** *Klotzch.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—多孔菌科.

總體革質の菌にして常に水平に生じ,蓋薄くして稍々扁平なれども普通は莖に近き部分少しく凹狀をなせり。蓋の表面平滑にして褐色を呈す裏面に存する管層も亦薄くして管甚だ短し。莖は細くして蓋の一側に附着し,其裏面黑色にして光澤あり。枯れたる樹木に發生す。

Tab.4. 第四版



1－4, *Gomphidius roseus* Fr. ○ ······ あふぎたけ、

5－6, *Morchella esculenta* Pers. ○ ······ あみかさたけ、

7－10, *Cortinarius purpurascens* Fr. ⊙ ······ ふうせんたけ、

11－14, *Helvella sulcata* Afz. ⊙ ······ こくろあみがさたけ、

15－17, *Isaria arachnophila* Ditm. ✡ ······ くもたけ、

18－19, *Hygrophorus conicus* Fr. ⊙ ······ あかやまたけ、

20－23, *Lepiota licmophora* B. et C. ⊙ ······ きつねのはながさ、

24－28, *Marasmius siccus* Schw. ⊙ ······ はりがねおちばたけ、

29－30, *Morchella conica* Pers. ○ ······ とがりあみがさたけ、

31, *Cyathus vernicosus* D. C. △ ······ ちやだいごけ、

ILLUSTRATIONS OF JAPANESE FUNGI

EXPLANATIONS OF PLATE IV

(1) Figs. 1—4. **Gomphidius roseus** *Fr.* Jap. nam. *Ōgi-take.*

Pileus obtuse often slightly depressed when old, very slimy when moist, shining when dry with a satiny lustre, of a beautiful pink colour; gills decurrent, often forked, distant; stem attenuated downwards, solid. Common in woods.

---

(2) Figs. 5—6. **Morchella esculenta** *Pers.* Jap. nam *Amigasa-take.*

Pileus ovate, adnate to the stem at the base, hollow, covered with a network of blunt ridges enclosing irregular, polygonal pits of about equal size, and not elongated. Grows on the ground in early summer.

---

(3) Figs. 7—10. **Cortinarius purpurascens** *Fr.* Jap. nam. *Fūsen-take.*

Pileus obtuse, tawny-olivaceous, margin at first incurved then wavy; gills greyish purple, then brown; stem solid, bulbous, fibrillose, bulb submarginate; flesh of the pileus and the stem become slightly purplish when bruised.

---

(4) Figs. 11—14. **Helvella sulcata** *Afz.* Jap. nam *Kokuro-amigasa-take.*

Pileus thin, flexible like rubber cloth, folded to saddle the apex of the stem, outer surface blackish-grey; stem variously ribbed, pallid. This species is smaller than Helvella lacunosa Afz. in general form. Grows on the ground in Spring and Autumn.

---

(5) Figs. 15—17. **Isaria arachnophila** *Ditm.* Jap. nam. *Kumo-take.*

Stroma erect, simple, cylindrical, everywhere bearing conidia, powdery, with a suggestion of purplish pink; conidia linear-oblong. Usually grows on earth-spider, occurs in June or July.

---

(6) Figs. 18—19. **Hygrophorus conicus** *Fr.* Jap. nam. *Akayama-take.*

Pileus acutely conical, smooth, somewhat lobed, orange, scarlet, turning black when bruised; gills free or adnexed, yellowish with cinereous tinge, wavy; stem hollow, cylindrical, fibrillose, striated, yellow, turning black when handled.

---

(7) Figs. 20—23. **Lepiota licmophora** *B. et C.* Jap. nam. *Kitsuneno-hanagasa.*

Pileus subcylindrical when young, at length expand lemon-yellow, flesh very thin, coarsely grooved up to the disc; gills very remote from the stem, thin; stem very long, thickened downwards, hollow, coloured like the pileus; ring distant, persistent.

---

(8) Figs. 24—28. **Marasmius siccus** *Schw.* Jap. nam. *Harigane-ochiba-take.*

Pileus at first nearly conical, then campanulate, membranaceous, dry, smooth, sulcate, pink or ochraceous-red, darker in the centre; gills free, few, distant, whitish, stem very long, tough, smooth, shining, blackish-brown. This is a very beautiful, lovely plant, growing from the fallen leaves.

---

(9) Figs. 29—30. **Morchella conica** *Pers.* Jap. nam. *Togari-amigasa-take.*

Pileus elongated, slightly conical, hollow, primary ribs stout, longitudinal, often forking, joined by slendor transverse ridges; stem minutely villose, hollow, the cavity continuous with that of the pileus.

---

(10) Figs. 31. **Cyathus vernicosus** *D. C.* Jap. nam. *Chadaigoke.*

Bell-shaped, inside smooth, even, outside ochraceous, minutely downy, at length smooth. Entire plant resembles, when mature, tiny bird's nests containing eggs. (*S. Kawamura.*)

日本菌類圖譜
第四圖版解說

(1) Figs. 1—4. (和名) **あふぎだけ** (學名) **Gomphidius roseus** *Fr.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—襵菌科.

蓋丸く往々中央部少しく凹入す, 濕へるときは甚しく粘性を帶び乾けるときは光澤あり, 常に紅褐色なり。襵は莖に垂生し, 屢々叉狀に分岐せり。莖は其下方に向つて少しく細れり, 中實。秋季各所の林中に多し。採りて食用に供す。

---

(2) Figs. 5—6. (和名) **あみがさたけ** (學名) **Morchella esculenta** *Pers.*
(所屬) 子囊菌門—盤菌族—網笠茸科.

子實體の頭部は卵形或は楕圓形を呈し, 下部は直接莖に連れり。頭部, 莖部共に總て中空。頭部の表面に存する窩房は不規則なる多角形をなし。子囊は圓柱狀にして八個の胞子を藏す, 胞子は楕圓形にして無色, 單胞なり。本菌は歐米の諸國にては普通に食用とせるも本邦にては信州の或地方にて古來食用に供せる外廣く食用とすることを聞かず。四.五月の頃原野.庭園等に發生す。

---

(3) Figs. 7—10. (和名) **ふうせんたけ** (學名) **Cortinarius purpurascens** *Fr.*
擔子菌門—帽菌族—襵菌科.

蓋黃褐色, 形丸く周邊は多少波狀をなし, 初めは內に卷けり。襵は初め紫色なれども胞子の熟したる後は褐色を呈す。莖は中實にして下部膨大し算盤玉の形を呈す。蓋の周邊より莖の基部に達せる紫色の菌絲ありて蜘蛛絲狀を爲して存す。莖の表面にも亦多く遊離菌絲ありて淡紫色を呈す。蓋及び莖の內部の肉は多少紫色を帶ぶ (此圖には其色充分に顯れ居らず)

---

(4) Figs. 11—14. (和名) **こくろあみがさたけ** (學名) **Helvella sulcata** *Alz.*
(所屬) 子囊菌門—盤菌族—網笠茸科.

蓋甚だ廣く, 肉質にして彈性あり, 莖の上に當れる部分鞍狀を爲す, 外面は黑色を呈し其部に無色の子囊を存す。子囊は各々中に八個の胞子を藏す。側絲は絲狀にして尖端膨る。「くろあみがさたけ」に比して總體小形なり。春秋二季に發生す。

---

(5) Figs. 15—17. (名和) **くもたけ** (學名) **Isaria arachnophila** *Ditm.*
(所屬) 子囊菌門—不完全菌類—蜘蛛茸科.

動物寄生菌の一にして常に地蜘蛛に寄生す。地蜘蛛は地中に深く管狀の巢を營むものなるが本菌に冐されたるものは地面に開ける巢孔より一個の子實體を突出す。子實體は棍棒狀を呈し, 上部淡紫色を帶ぶ, 此部分は卽ち胞子の存する所にして天鵞絨の觀を呈し, 乾燥せる粉狀の分生胞子を生せり。子實體の下部は膨大し肉質にして地蜘蛛の屍を中に藏せり。

---

(6) Figs. 18—19. (和名) **あかやまたけ** (學名) **Hygrophorus conicus** *Fr.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—襵菌科.

蓋は圓錐狀をなし, 其色橙黃或は鮮黃にして甚だ美なり。莖は細長くして鮮黃色を呈し往々赤色を帶べる事あり。纖維質にして往々拗れたり。蓋莖共に傷つきたる部分は黑變す。本菌は其色鮮紅にして外觀毒々しきも元來無毒なり。

---

(7) Figs. 20—23. (和名) **きつねのはながさ** (學名) **Lepiota licmophora** *B. et C.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—襵菌科.

蓋は幼稚なる時は圓錐狀をなし, 終に開展して扁平となる, 淡黃色にして甚だ美麗なり。蓋の表面には放射狀に條を生せり, 其中央に圓盤狀の部分を存す。肉は極めて薄く襵は莖より甚だしく隔てり。莖細くして甚だ長く, 下部膨大す, 中空, 蓋と同樣黃色を呈す。鍔は莖の上部に存すれども蓋より遠く隔てり。

---

(8) Figs. 24—28. (和名) **はりかねおちばたけ** (學名) **Marasmius siccus** *Schw.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—襵菌科.

蓋は初め殆んど圓錐狀をなし後鐘狀或は扁平となる, 薄膜質, 多少襞皺を顯はせり。黃褐色又は紅色を呈す, 中央部は其色濃し。襵は莖に離生し, 其數甚だ少し。落葉の腐朽しつゝあるものゝ上に生ず。可憐なる小菌なり。

---

(9) Figs. 29—30. (和名) **とがりあみがさたけ** (學名) **Morchella conica** *Pers.*
(所屬) 子囊菌門—盤菌族—網笠茸科.

子實體頭部は稍々圓錐形をなす, 中空なり, 壠起の大なるもの尖端より基底に向ひ縱走せるを認む。其間を數多の小壠起によりて橫に區分し多少長方形の窩房を造る。本菌は子實體頭部の圓錐狀なると大なる壠起の縱走せるとにより肉眼的に他種と區別し得べし。

---

(10) Figs. 31. (和名) **ちやだいごけ** (學名) **Cyathus vernicosus** *D. C.*
(所屬) 擔子菌門—腹菌族—茶臺苔科.

全體盃狀をなし, 其內壁は平滑, 外面は黃褐色にして初め細毛を生せり。盃狀をなせる各個體の中には數個の丸くして扁平なる物體を藏すること鳥巢中に存する卵に彷彿たり。

ILLUSTRATIONS OF JAPANESE FUNGI

PUBLISHED BY

THE BUREAU OF FORESTRY

OF

THE DEPARTMENT OF AGRICULTURE AND COMMERCE

日本菌類圖譜

第二集

農商務省山林局

大正二年三月二十六日印刷
大正二年三月三十一日發行

農商務省山林局

東京市神田區通新石町三番地
印刷者　田中市之助

東京市神田區通新石町三番地
印刷所　合資會社東陽堂

東京市神田區通新石町三番地
發賣所　合資會社東陽堂
電話（本局九七〇）

ILLUSTRATIONS OF JAPANESE FUNGI

PUBLISHED BY
THE BUREAU OF FORESTRY
OF
THE DEPARTMENT OF AGRICULTURE AND COMMERCE

日本菌類圖譜

第二集

農商務省山林局

第二集　序言

本圖譜第一集は蕈菌類三十八種を收めて曩に發行したる所なるが今又更に三十七種を選びて四個の圖版に製し本圖譜第二集として之を公にするに至れり。是等の原圖は盡く予が實物を採集し其の都度之を寫生したるものに係り一つも他の圖書より摹寫したるものなし

和名は成るべく古來民間に用ゐらるゝ名稱を採り萬止むを得ざる場合の外は机上に選定せられたる名稱を避けたり

學名は現今歐米に於て最廣く用ゐらるゝものを採りたり例へば「ひらたけ」の學名は故ヘンニングス氏がエングレル氏の Pflanzenfamilien 書中に分類する所及今日尙リンダウ氏等が分類する所に從はゞ Agaricus 屬として Pleurotus は其の亞屬名と爲すべきも本書に於ては Pleurotus を屬名とせる Pleurotus ostreatus Jacq. なる名稱を採用せり、是れ本圖譜發行の目的は實用を主とするにあれば學名の選定に就ても菌類學上より論議する所に泥まず從來最廣く用ゐらるゝものに據れり、故に Pleurotus の外 Omphalia, Mycena, Collybia, Clitocybe, Tricholoma 等のリンダウ氏等が以て亞屬とせるものも本圖譜に於ては夫々獨立せる屬として用ゐたり

本圖譜の解說は英文和文共に各圖版に對し一頁と限定し居るを以て止を得ず不充分の儘に終れるもの多けれども是等は別に予が著述せんとする菌類書中に於て充分に補はん事を期す乞ふ之を諒せよ

本集圖版製作に就ては第一集同樣農商務屬大石榮雄氏を煩したるは予の深く感謝する所なり

著　者　林務技師　川村清一

大正二年三月三十日

Tab.5. 第五圖版



1-7, *Peziza splendens* Quel. ⊙ ―――― きんちやわんたけ.
8-12, *Peziza rapulum* Bull. ⊙ ―――― はすのはたけ.
13-15, *Gomphidius viscidus* (L.) Fr. ○ ―――― くぎたけ.
16-18, *Midotis macrotis* Berk. ⊙ ―――― みみぶさたけ.
19-21, *Hygrophorus calyptraeformis* Berk. ⊙ ―――― あけぼのたけ.
22-25, *Marasmius alliatus* Schaeff. ⊙ ―――― しろかればたけ.
26-29, *Helvella lacunosa* Afz. ⊙ ―――― くろあみがさたけ.
30-32, *Marasmius erythropus* Fr. ⊙ ―――― かればたけ.
33-35, *Peziza vesiculosa* Bull. ⊙ ―――― ねほちやわんたけ.

ILLUSTRATIONS OF JAPANESE FUNGI

EXPLANATIONS OF PLATE V

(1) Figs. 1—7. **Peziza splendens** *Quel.* Jap. nam. *Kinchawantake.*

Caespitose, stipitate, beautiful golden colour; asci cylindrical; spores elliptical, reticulated, hyaline; grows on the ground amongst fallen leaves.

---

(2) Figs. 8—12. **Peziza rapulum** *Bull.* Jap. nam. *Hasunohatake.*

Ascophore stipitate, almost plane, thin, glabrous; stem tapering downwards, elastic; asci cylindrical, 8—spored; spores hyaline, smooth, elliptical; paraphyses hyaline, filiform.

---

(3) Figs. 13—15. **Gomphidius viscidus** (L.) *Fr.* Jap. nam. *Kugitake.*

Pileus convex then expanded but umbonate in the disc, viscid, reddish brown, flesh thick; gills distant, decurrent, becoming purplish umber with an olive tinge; spores elongato-fusiform.

---

(4) Figs. 16—18. **Midotis macrotis** (Berk). *Fr.* Jap. nam. *Mimibusatake.*

Ascophore hare's-ear shaped, margin involute, fleshy, firm, dark brown coloured, many ascophores growing from one root; asci cylindrical; spores elliptical.

---

(5) Figs. 19—20. **Hygrophorus calyptriformis** *Berk.* Jap. nam. *Akebonotake.*

Pileus acutely when young, then expanded, pale rose-colour, flesh thin; gills slightly adnexed, rose-colour, becoming paler with age.

---

(6) Figs. 22—25. **Marasmius alliatus** (Schaeff.) *Schröt.* Jap. nam. *Shirokarebatake.*

Pileus 1—3 cm. across, whitish yellow; flesh thin; stem 2—4 cm. long, dark reddish brown sometimes black at the foot; occurs from June to October.

---

(7) Figs. 26—29. **Helvella lacunosa** *Alz* Jap. nam. *Kuroamigasatake.*

Ascophore blackish-grey, saddle-shaped, lobes attached to the stem by the under surface; stem whitish, deeply furrowed; asci cylindrical, 8—spored; spores elliptical, smooth, hyaline.

---

(8) Figs. 30—32. **Marasmius erythropus** (Pers.) *Fr.* Jap. nam. *Karebatake.*

Pileus convex then expanded, about 3 cm. in diameter, typically light brown but varies according to the habitat; gills almost free, broad, whitish margin entire; stem hollow, tough, round or depressed, blackish-red at the foot; grows among fallen leaves, scattered or caespitose.

---

(9) Figs. 33—36. **Peziza vesiculosa** *Bull.* Jap. nam. *Ōchawantake.*

Almost common and largest Peziza; sessile but more or less narrowed at the base, margin usually incurved and somewhat notched, brownish; asci cylindrical, 8—spored; spores elliptical, hyaline, usually grows in cluster.

(S. Kawamura.)

日本菌類圖譜

第五圖版解説

(1) Figs. 1—7. (和名) **きんちやわんたけ** (學名) **Peziza splendens** *Quel.*
(所屬) 子囊菌門—盤菌族—茶碗茸科.

「ちやわんたけ」の一種にして長き莖を有す。全體黃色、內面は橙黃色を呈し甚だ美なり。子囊は圓柱形にして八個の胞子を藏す。胞子は楕圓形にして表面に網狀の隆起を有す。多く樅林の落葉中に群生す。

---

(2) Figs.8—12. (和名) **はすのはたけ** (學名) **Peziza rapulum** *Bull.*
(所屬) 子囊菌門—盤菌族—茶碗茸科.

全體軟質にして彈性ある小菌なり。圓板狀をなし其の中央に附著せる長き莖を有す。其の狀蓮の葉の如し。故に此ば和名を得たり。圓板狀をなせる部分の上面は卽ち子囊層なり。圓柱形なる子囊中に八個の胞子を藏す。胞子は透明しにて楕圓形なり。

---

(3) Figs.13—15. (和名) **くぎたけ** (學名) **Gomphidius viscidus** (L.) *Fr.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—襵菌科.

蓋は赤褐色。肉厚し。襵は莖に垂生し褐紫色を呈す。胞子は長紡錘形を爲せり。干して貯へ食用とす。濕へるときは粘性强し。

---

(4) Figs. 16—18. (和名) **みゝぶさたけ** (學名) **Midotis macrotis** (Berk.) *Fr.* (=Wynnea macrotis B. et C.)
(所屬) 子囊菌門—盤菌族—茶碗茸科

兎耳狀をなせる多數の子實體は一個の莖より出ず。故に「みゝぶさたけ」と稱す。全體闇褐色を呈す耳狀をなせるものゝ內面は卽ち子囊層の存する所にして子囊は圓柱形。胞子は楕圓形なり、世界に於て本菌の產地として知らるは印度,北米等に過ぎざりしが近頃予は本邦に於ても亦之を產することを知れり。

---

(5) Figs. 19—21. (和名) **あけぼのたけ** (學名) **Hygrophorus calyptriformis** *Berk.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—襵菌科.

蓋の徑一二寸なる軟質の菌なり。其の色淡紅、甚だ可憐なり。襵も亦蓋の如く淡紅色を呈し老ゆるに從つて褪色す。無毒菌なり。全體半透明質なり。

---

(6) Figs. 22—25. (和名) **しろかればたけ** (學名) **Marasmius alliatus** (Schaeff.) *Schrot.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—襵菌科.

蓋の徑五分乃至一寸許なる小菌にして落葉中に生ず襵は白色にして莖に殆ど離生す。肉薄く其の質丈夫なり。莖の下部赤褐色或は黑褐色を呈す。

---

(7) Figs. 26—29. (和名) **くろあみがさたけ** (學名) **Helvella lacunosa** *Alz.*
(所屬) 子囊菌門—盤菌族—網笠茸科.

蓋部は表面黑褐色にして薄く多少裂片となりて卷き中央部は鞍狀を呈せり。莖は白色にして縱に多くの裂溝を有す。蓋の表面黑褐色なる所は卽ち子囊層にして子囊中に八個の透明楕圓形なる胞子を藏す。側絲の先端部褐色なるが故に子囊層黑褐色を呈す。

---

(8) Figs. 30—32. (和名) **かればたけ** (學名) **Marasmius erythropus** (Pers.) *Fr.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—襵菌科.

蓋の徑約一寸なる小菌にして落葉の堆積せる所に叢生するを常とす。肉薄くして液汁に乏し。襵は白色にして莖に殆ど離生し其の幅廣し。莖は中空にして其の下部は常に黑褐色を呈せり。

---

(9) Figs. 33—36. (和名) **おほちやわんたけ** (學名) **Peziza vesiculosa** *Bull.*
(所屬) 子囊菌門—盤菌族—茶碗茸科.

「ちやわんたけ」類中形最大なるものゝ一なり。莖を缺ぐと雖下底部は多少細まれり多數相集りて發生するが常なれば互に押されて多少の皺襞を生じ周緣も亦內に卷ける場合多し。碗狀をなせる內面は卽ち子囊層にして圓柱形なる子囊中に八個の胞子を藏す。胞子は透明にして楕圓形なり。



1–3. *Amanitopsis vaginata (Bull.) Roze var. alba Fr.* ○……しろつるたけ.
4–6. *Russula aurata (With.) Fr.* ○……にしきたけ.
7–8. *Tricholoma personatum. Fr.* ○……むらさきしめぢ.
9–11. *Tricholoma Russula Schaeff.* ○……さくらしめぢ.
12–14. *Lysurus Mokusin (Cibot) Fr.* △……つまみたけ.
15–17. *Dictyophora phalloidea Desv.* △……きぬがさたけ.
18–20. *Entoloma sinuata Fr.* ×……いっぽんしめぢ.
21–23. *Lactarius volemus Fr.* ○……ちたけ.
24–25. *Armillaria mellea (Vahl) Quel.* ○……ならたけ.
26–27. *Ithyphallus rugulosus Fisch.* △……きつねのたいまつ.

ILLUSTRATIONS OF JAPANESE FUNGI

EXPLANATIONS OF PLATE VI

(1) Figs. 1—3. **Amanitopsis vaginata** (Bull.) *Roze.* var. alba *Fr.* Jap. nam. *Shirotsurutake.*

Pileus white, bell-shaped at first then convex and expanded, margin coarsely striate; gills free, white; stem equally attenuated upwards, hollow or stuffed; volva soft entirely sheathing; occurs in early summer.

---

(2) Figs. 4—6. **Russula aurata** (With) *Fr.* Jap. nam. *Nishikitake.*

Pileus convex then expanded, orange, yellow or reddish-coloured; gills and stem white; entire plant brittle; occurs in summer, edible.

---

(3) Figs. 7—8. **Tricholoma personatum** *Fr.* Jap. nam. *Murasakishimeji.*

Pileus about 8 cm. in diameter, grayish to brownish tinged with purple, especially when young, fading out in age; gills rounded behind, violet in colour; stem somewhat bulbous, coloured like the pileus when young, solid, edible.

---

(4) Figs. 9—11. **Tricholoma Russula** *Scheaff.* Jap. nam. *Sakurashimeji.*

Pileus about 7 cm. in diameter, flesh thick at the disc, rosy colour, gills slightly rounded sometimes slightly decurrent, white, slightly spotted; stem solid, firm, white tinged with rose colour.

---

(5) Figs. 12—14. **Lysurus Mokusin** (Cibot) *Fr.* Jap. nam. *Tsumamitake.*

Receptacle elongated, hollow; pileus apical not free from the receptacle, pyramidal, 5-ridged, with a distinct faetid smell.

---

(6) Figs. 15—17. **Dictyophora phalloidea** *Desv.* Jap. nam. *Kinugasatake.*

Pileus campanulate, reticulated; veil strongly developed, white; volva soft, elastic, with cord-like mycerium underground, with a distinct odour. This fungus is used for food in China. (=Phallus indusiatus.)

---

(7) Figs. 18—20. **Entoloma sinuata** *Fr.* Jap. nam. *Ipponshimeji.*

Pileus very fleshy, convex then expanded; margin often wavy, gill very sinuate, rosy-coloured, poisonous.

---

(8) Figs. 21—23. **Lactarius volemus** *Fr.* Jap. nam. *Chidake.*

Pileus reddish yellow, flesh thick, white; gills somewhat decurrent, white then yellow; stem coloured like the pileus, solid; milk white, mild, edible.

---

(9) Figs. 24—25. **Armillaria mellea** (Vahl) *Quel.* Jap. nam. *Naratake.*

One of the most common of the autumn fungi, widely distributed over the world; pileus usually adorned with brown scales especially in the disc; gills adnate or decurrent, white, becoming dingy in age; stem spongy within, often covered with yellowish down at the base, edible.

---

(10) Figs. 26—27. **Ithyphallus rugulosus** *Fisch.* Jap. nam. *Kitsunenotaimatsu.*

Receptacle elongated, hollow, cellular; pileus campanulate rugulose externally.

(S. Kawamura.)

日本菌類圖譜
第六圖版解說

(1) Figs. 1—3. (和名) **しろつるたけ** (學名) **Amanitopsis vaginata** (Bull.) *Roze.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—裀菌科. **Var. alba** *Fr.*

蓋の表面白色往々脚苞の破片を附著せることあり。蓋の周邊は肉薄きが爲裀の附著せる所は條となりて表面に現はる。莖は中空上方に向つて少しく細まれり。其の下部は鞘狀の脚苞にて包まる。本菌は其の質脆くして脚苞を有し且蓋上に疣點に相當するものを載くことあるを以て「てんぐだけ」屬の諸菌に酷似せり。然れども莖に鍔を有せざる事に依りて區別し得べし。元來無毒なれば採りて食用とせる者あり。

---

(2) Figs. 4—6. (和名) **にしきたけ** (學名) **Russula aurata** (With.) *Fr.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—裀菌科.

形「あゐたけ」に似て蓋の表面橙·黃·赤等の色を帶び甚だ美なり。質脆し。裀莖共に白く夏季發生し。食用とす。

---

(3) Figs. 6—8. (和名) **むらさきしめぢ** (學名) **Tricholoma personatum** *Fr.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—裀菌科.

蓋の徑三寸に達す。肉厚し。裀莖の色初鮮紫色を呈するが故に一般に「むらさきしめぢ」と呼ぶ。裀は莖に多少灣生し。莖は內部充實し下部稍膨脹せり。廣く食用に供す。

---

(4) Figs. 9—11 (和名) **さくらしめぢ** (學名) **Tricholoma Russula** *Schaeff.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—裀菌科.

蓋の徑二三寸にして其の中央部は肉厚し。地色は白なるも常に赤色を以て染められ時に鮮紅色を呈せることあり。裀は莖に多少灣生することあり或は垂生することあり。莖は內部充實し其の表面の色蓋に同じ。少しく苦味あれども食用とせり。

---

(5) Figs. 12—14. (和名) **つまみたけ** (學名) **Lysurus Mokusin** (Cibot.) *Fr.*
(所屬) 擔子菌門—腹菌族—鬣茸科

「きつねのゑふで」に類し特殊の惡臭を發す莖は白色にして中空其上端頭部は五稜にして尖り。稜部は紅色にして其間に褐色なる粘液を有す。

---

(6) Figs. 15—17. (和名) **きぬがさたけ** (學名) **Dictyophora phalloidea** *Desv.*
(所屬) 擔子菌門—腹菌族—鬣茸科.

「すつぽんだけ」に似て白色網狀なる蓋膜を有す蓋膜は鐘狀なる蓋の下方よりマントの形して莖の周圍に垂れ其樣甚だ美なり。蓋の表面に惡臭を發する粘液を有するが故に一般に有毒菌と看做れ居るも本來は無毒なるにより古來支那にては竹蓀と稱し珍味の食料とせり。

---

(7) Figs. 18—20. (和名) **いつぽんしめぢ** (學名) **Entoloma sinuata** *Fr.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—裀菌科.

蓋は中央部突圓なるを普通とす其の色淡黃灰色。裀は淡紅色を呈し莖に著しく灣生す。莖白し。有毒菌にて中毒する者每年少からず。

---

(8) Figs. 21—23. (和名) **ちだけ** (學名) **Lactarius volemus** *Fr.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—裀菌科.

蓋は黃褐色。裀は初白色後黃色となる。莖は其の色蓋に同じくして淡なり。總ての部分より傷つくときは白色の乳液を分泌す。其の味辛からず。夏季發生し廣く食用とせり。

---

(9) Figs. 24—52. (和名) **ならたけ** (學名) **Armillaria mellea** (Vahl) *Quel.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—裀菌科.

本菌は晩夏より秋にかけて廣く各地に最普通に產するものなり。莖の上部に明確なる鍔を有す。莖の下端は往々黃色を呈す。蓋の表面には鍊狀の鱗片を載く場合多し。一般に食用とす。本菌は桑樹の害菌として知られ其の他多くの樹木に害を與ふるものなれど亦常には朽木の根株に生ずるか或は朽木の幹根の埋れたる地上に生ず。著しき菌絲束を造りて蔓延す。

---

(10) Figs. 26—27. (和名) **きつねのたいまつ** (學名) **Ithyphallus rugulosus** *Fisch.*
(所屬) 擔子菌門—腹菌族—鬣茸科.

「すつぽんだけ」に似て小形なり。蓋は鐘狀にして赤し。表面に粘液を有し惡臭を發す。毒菌と看做れ居るも果して毒分を含有するや否や不明なり。

Tab.7. 第七圖版



1–4, *Inocybe rimosa Bull.* × .... あせたけ(どくすぎたけ).
5–7, *Lactarius Hatsudake Tanaka.* ○ .... はつたけ.
8–10, *Hydnum repandum Linn.* ○ .... かのした.
11–14, *Lactarius Akahatsu Lanaka.* ○ .... あかはつ.
15–17, *Amanita caesarea Scop.* ○ .... たまごたけ.
18–20, *Cortinarius elatior Fr.* ⊙ .... あぶらしめぢ.
21–23, *Amanita mappa Fr* × .... こたまごてんぐたけ.
24–25, *Amanita phalloides Fr.* × .... たまごてんぐたけ.
26–28, *Tricholoma equestre Linn.* ○ .... きしめぢ.
29–30, *Polypolus leucomelus (Pers.) Fr.* ○ ...... くろかわ(うしびたい)(ろうじ).

ILLUSTRATIONS OF JAPANESE FUNGI

EXPLANATIONS OF PLATE VII

(1) Figs. 1—4. **Inocybe rimosa** *Bull.* Jap. nam. *Asetake*, (*Dokusugitake*).

Pileus 3—5 cm. in diameter, flesh thin, campanulate, silky fibrous, yellowishbrown ; gills almost free, stem white, firm ; spores elliptical, poisonous.

---

(2) Figs. 5—7. **Lactarius Hatsudake** *Tanaka.* Jap. nam. *Hatsudake.*

Pileus depressed, viscid, glabrous, zoned, margin usually incurved ; gills decurrent ; stem thick, often narrowed at the base, every part becoming stained with dingy green when bruised ; occurs in early autumn ; widely used for food in Japan.

---

(3) Figs. 8—10. **Hydnum repandum** *Linn.* Jap. nam. *Kanoshita.*

Pileus fleshy, subrepand, nearly smooth or minutely floccose, somewhat waved ; stem deformed, pallid ; spines crowded, brittle ; entire plant whitish, opaque yellow, edible.

---

(4) Figs. 11—14. **Lactarius Akahatsu** *Tanaka.* Jap. nam. *Akahatsu.*

Pileus depressed, viscid, glabrous, zoned ; gills decurrent ; stem stuffed or hollow ; every part abounding with orange milk, taste mild ; occurs with Lactarius Hatsudake Tanaka, and most nearly allied to Lactarius delicious Fr.

---

(5) Figs. 15—17. **Amanita caesarea** *Scop.* Jap. nam. *Tamagotake.*

Pileus globose then plane, margin striate, pellicle viscid, orange or orange-red ; gills free from the stem, deep yellow ; stem and ring yellow or orange ; volva sac-like, white. This plant is called egg fungus in Japan because entire plant yellow in colour and enclosed with white volva when quite young, edible.

---

(6) Figs. 18—20. **Cortinarius elatior** *Fr.* Jap. nam. *Aburashimeji.*

Pileus 7—12 cm. in diameter, campanulate, then expanded, very much viscid when moist ; gills adnate ; stem solid, commonly attenuate at both ends, edible.

---

(7) Figs. 21—23. **Amanita mappa** *Fr.* Jap. nam. *Kotamagotengutake.*

Pileus convex then plane, dry, yellowish ; gills free, crowded, white ; ring soft ; volva more or less buried in the ground, bulbous ; smell strong.

---

(8) Figs. 24—25. **Amanita phalloides** *Fr.* Jap nam. *Tamagotengutake.*

Pileus campanulate, then expanded, white with an olive or umber tinge ; gills free, white ; stem slightly attenuated upwards bulbous, hollow but solid at the base, very poisonous.

---

(9) Figs. 26—28. **Tricholoma equestre** *Linn.* Jap. nam. *Kishimeji.*

Pileus 5—10 cm. in diameter, convex then expanded, more or less gibbous, yellow, darker at the disic ; flesh thick, firm, white, yellowish under the cuticle ; gills sinuate, yellow ; stem solid yellowish like the gills.

---

(10) Figs. 29—30. **Polypolus leucomelas** (Pers.) *Fr.* Jap. nam. *Kurokawa.*

Pileus 8—15 cm. across or often larger, margin usualy incurved, smoky black ; flesh whitish ; mouth of pores whitish ; stem smoky but paler than the pileus.

(S. Kawamura.)

日本菌類圖譜

第七圖版解說

(1) Figs. 1—4. (和名) **あせたけ(どくすぎたけ)** (學名) **Inocybe rimosa** *Bull.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—〓菌科.

蓋の徑一二寸なる小菌なり。蓋の表面には褐色にして絹絲狀なる纖維を被れり。往々縱に裂けて白色の肉を現はせり。初秋の候針葉樹林に生ず。本菌を誤食したる者は發汗性中毒症を起す。

---

(2) Figs. 5—7. (和名) **はつだけ** (學名) **Lactarius Hatsudake** *Tanaka.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—〓菌科.

蓋は漏斗狀をなし濕へるときは多少粘性を帶ぶ。表面に數個の同心環紋を現はせり。傷つきたる所は綠青色に變ず。晩夏或は初秋の候諸菌に先じて發生する食用菌なるが故に初茸と呼ぶ。

---

(2) Figs. 8—10. (和名) **かのした** (學名) **Hydnum repandum** *Linn.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—皮茸科.

「かうたけ」の如く蓋の裏面に棘狀の子實層托を密生せり。全體白色にして淡黃色を帶び其の質甚だ脆し。中國地方にては一般に「かのした」と呼び普通に食用とす。

---

(4) Figs. 11—14. (和名) **あかはつたけ** (學名) **Lactarius Akahatsu** *Tanaka.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—〓菌科.

蓋は漏斗狀をなし濕へるときは多少粘性を帶び表面に數個の同心環紋を現せる等總て「はつだけ」に似たり。唯本菌にありては其の色淡紅なると傷つきたる部分より橙黃色なる乳汁を分泌する點に於て前者と異れり。初秋「はつだけ」と共に發生し一般に食用に供せり。

---

(5) Figs. 15—17. (和名) **たまごたけ** (學名) **Amauita caesarea** *Scop.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族 - 〓菌科.

蓋は橙黃色又は紅色を呈し「べにてんぐたけ」の如き多數の疣點を有せず。〓は黃色にして莖に離生し。莖も亦黃色或は橙黃色にして同色の鍔を有す。莖の下部は大なる袋狀の白き脚苞に包まる。夏季發生し食用に供せらる。然れども全體猛毒なる「べにてんぐたけ」に似たれば食用とする際特に注意を要す。

---

(6) Figs. 18—20. (和名) **あぶらしめぢ** (學名) **Cortinarius elatior** *Fr.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—〓菌科.

蓋の徑三四寸に達す。初鐘狀をなす。其の表面濕へるときは甚だしく粘性を帶ぶ。〓は莖に直生す。莖は上下端に向つて多少尖れり。食用に供す。

---

(7) Figs. 21—23. (和名) **こたまごてんぐたけ** (學名) **Amanita mappa** *Fr.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—〓菌科.

蓋は初鐘狀後扁平となる。表面平滑、淡黃色を呈す。〓白色、莖に離生す。莖は下端球狀に肥大し上部には軟かき鍔を有す。臭氣あり。

---

(8) Figs. 24—25. (和名) **たまごてんぐたけ** (學名) **Amanita phalloides** *Fr.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—〓菌科.

形態總て「こたまごてんぐたけ」に似たれども形の大なると白色なるとを以て直に識別し得べし。猛毒菌なり。

---

(9) Figs. 26—28. (和名) **きしめぢ** (學名 **Tricholoma equestre** *L.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—〓菌科.

蓋は初球狀にして後開展するも中央部少しく高まれるを普通とす。黃色にして中央部少しく淡褐色を帶ぶ。〓は著しく莖に灣生し廣く食用とせり。〓莖共に黃色なり

---

(10) Figs. 29—30 (和名) **くろかわ** (學名) **Polypolus leucomelas** (Pers.) *Fr.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—多孔菌科.

蓋の大さ二三寸より五六寸に達す。蓋の周緣は下に卷き形正しからざるを常とす。表面は黑色なれども肉白色なり。蓋の裏面は卽ち管孔面にして白し，莖短く其の表面の色は蓋に似て淡なり。「くろかわ」の外に「うしびたひ」「うしたけ」「なべたけ」「ろうじ」等の方言あり。食用とす。少しく苦味あり。



1–2, *Pleurotus ostrealus Jacq.* ○ ········ ひらたけ.
3–5, *Russula integra (L.) Fr. var.* ○ ········ よへいじ.
6–7, *Tricholoma rutilans Schaeff.* ⊙ ········ さまつもどき.
8–10, *Strobilomyces strobilaceus (Scop.) Berk.* ⊙ ········ わにいくち.
11–12, *Cortinellus edodes P. Henn.* ○ ········ まつたけ.
13–14, *Pholiota squarrosa Muell.* ⊙ ········ すぎたけ.
15–16, *Pholiota adiposa Fr.* ⊙ ········ ぬめりすぎたけ.
17–19, *Fomes japonicus Fr.* ⊙ ········ まんねんたけ(れいし)(さいはひたけ).

ILLUSTRATIONS OF JAPANESE FUNGI

EXPLANATIONS OF PLATE VIII

(1) Figs. 1—2. **Pleurotus ostreatus** *Jacq.* Jap. nam. *Hiratake.*

Pileus 8—20 cm. across, imbricated, convex then expanded, often depressed, margin involute a first, glabrous, dark when young, then grey, brown, and usually becoming yellowish; gills decurrent broad, white; stem very short firm, downy below, edible, commonly called oyster mushroom, found on rotten wood of many kind.

---

(2) Figs. 3—5. **Russula integra** (L.) *Fr.* **var.** Jap. nam. *Yohciji.*

Pileus convex then expanded and usually depressed, flesh rather thin, white; gills almost free; stem thick often more or less swollen in the middle, white stuffed; occurs in summer, edible. A brown coloured varaety of Russula integra (L.) *Fr.*

---

(3) Figs. 6—7. **Tricholoma rutilans** *Sehaeff.* Jap nam. *Samatsumodoki.*

Pileus 8—18 cm. across, flesh thick, yellow, entirely covered with a minute reddish-brown or purple down; gills yellow from the earliest stage, adnexed, crowded; stem yellowish covered with purpurish, floccose squamules, edible.

---

(4) Figs. 8—10. **Strobilomyces strobilaceus** (Scop.) Berk. Jap. nam. *Oni-ikuchi.*

Pileus hemispherical then convex, shagy from numerous large blackish, projecting scales, externaly blackish, flesh white but soon changes to reddish colour where bruised; tubes adnate, whitish, becoming dark; spores dark brown in mass.

---

(5) Figs. 11—12 **Cortinellus edodes** *P. Heen.* Jap. nam *Matsudake.*

Pileus 10—20 cm. across, often very large, fleshy compact, firm, hemispherical, convex then expanded, entirely covered with brownish fibres; gills white sinuate or adnexed covered with veil in young plants. This fungus has a special good smell, usually grows in red pine (Pinus densiflora S. et Z.) woods during authumn often in summer. Highly esteemed for food.

---

(6) Figs, 13—14. **Pholiota squarrosa** *Muell.* Jap. nam. *Sugitake.*

Pileus 8—12 cm. across, fleshy, bell-shaped, convex then expanded, tawny yellow, clothed with brown scales; gills crowded pale olive, then ferruginous; stem, pale tawny brown, covered with scales, but smooth above the ragged ring; usually found on rotten wood, from August to late frost; edible, but not commonly used for food.

---

(7) Figs. 15—16. **Pholiota adiposa** *Fr.* Jap. nam. *Numerisugtiake.*

Pileus 7—12 cm. across, convex, very viscid when moist, flesh whitish; gills adnate, yellow; stem coloured like the pileus, grows on trunks of various trees in authumn.

---

(8) Figs. 17—19. **Fomes japonicus** *Fr.* Jap. nam. *Reishi or Mannentake.*

Pileus reniform, laterally stipitate, corky, very hard when dry, usually blood-red with a chestnut tinge, often blackish, purpurish, polished. shining; stem very long usually longer than the diameter of the pileus, blackish, shining as varnished; the Japanese name "Mannentake" means a long life fungus.

(S. Kawamura.)

日本菌類圖譜

第八圖版解説

(1) Figs. 1–2. (和名) **ひらたけ** (學名) **Pleurotus ostreatus** *Jacq.*
(所屬) 擔子菌—帽菌族—襉菌科.

蓋の徑二三寸より五六寸に達す。貝殼狀をなし多數相重りて「えのき」「なら」「しで」「ぶな」等種々の濶葉樹の枯たるに生ず。鼠色.濃灰色.淡褐色等種々の色を呈す。襉は垂生し白色。莖は甚だ短くして其の基部には白柔毛密生す。食用には通例蓋の上皮を剝き肉と襉とを用ふ。

---

(2) Figs. 3—5. (和名) **よへいじ** (學名) **Russula integra** (L.) *Fr.* var.
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—襉菌科.

蓋は初鐘狀後に開展し終に中凹となる。表面滑澤にして茶褐色を呈す。襉は莖に離生し幅廣く相互の間隔も亦廣し。胞子は球狀にして粘土色表面に小突起を有す。莖雪白にして脆し内部は海綿狀疎鬆を生ず。夏季發生し食用とす。

---

(3) Figs. 6—7. (和名) **さまつもどき** (學名) **Tricholoma rutilans** *Schaeff.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—襉菌科.

蓋の徑三寸乃至六寸。肉は黄色。表面は淡紫色或は赤褐色の細かなる纎維狀の鱗皮を以て被はる。襉黄色にして幅廣く密生せり。莖も亦黄色にして其の表面は蓋の色に似て淡なり。「さまつたけ」に似て肉薄く莖稍細し故に「さまつもどき」と云ふ。

---

(4) Figs. 8—10. (和名) **おにいくち** (學名) **Strobilomyces strobilaceus** (Scop.) *Berk.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—多孔菌科.

總體「いくち」「あはたけ」と稱する菌に似たれども黒紫色なると蓋の全面に太き短き棘狀の鱗被を有するを以て著しく異れり。肉は白色なれども傷きて空氣に觸るゝときは赤味を帶ぶ。本菌は外觀毒々しきも元來有毒ならず。

---

(5) Figs. 11—12. (和名) **まつたけ** (學名) **Cortinellus edodes** *P. Henn.*
(=Armillaria edodes (Berk.) *Sacc.*)
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—襉菌科.

蓋は初半球狀にして次第に開きて突圓形となり終には扁平に開展す。襉は白色にして莖に接し或は灣生せり。蓋の充分開かざる間は蓋膜にて被はる。蓋の開きたる後は蓋膜は不明瞭なる鍔となりて殘存す。莖に於て鍔より下部及蓋の全面は茶褐色なる纎維狀表皮を以て被はる。本菌は其の味最美なると特殊の芳香を有するとを以て食用蕈類中の王とせらる。秋季赤松林に發生す。京都附近は其の最有名なる產地なり。往々夏季にも發生す之を夏松茸と云ふ。早松茸と云ふは別種なり。赤松以外栂其の他の針葉樹林にも生ず。山民「つがまつたけ」と稱するは此種に外ならず。赤松なき樺太地方にも盛に本菌を生ず。

---

(6) Figs. 13–14. (和名) **すぎたけ** (學名) **Pholiota squarrosa** *Muell.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—襉菌科.

蓋の徑三四寸黄色にして黄褐色なる鱗被を以て被はる。襉は初淡綠色。後褐色となる。莖黄色にして不完全なる鍔を有し其の下部は蓋の如く褐色の鱗被を有す。八月頃より十一月頃迄林中樹木に發生す。無毒なれども通常食用と爲さず。

---

(7) Figs. 15—16. (和名) **ぬめりすぎたけ** (學名) **Pholiota adiposa** *Fr.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—襉菌科.

蓋の徑三四寸黄色にして黄褐色なる鱗を有すること「すぎたけ」に似たれども本菌は濕へるときは蓋の全面に油の如き多量の粘液を有するを以て著し。襉は莖に接し初黄色を帶ぶ。秋季種々の樹木に生ず。

---

(8) Figs. 17—19. (和名) **まんねんたけ** (れいし) (學名) **Fomes japonicus** *Fr.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—多孔菌科.

蓋は腎臟形をなし赤褐色赤紫色或は闇紫色等を呈し漆の如き光澤を有す。蓋の下面卽ち管孔面は白色或は淡褐色。莖は通常蓋の直徑よりも長く其の表面黒色にして漆の如き光澤あり。諸種の樹木の上に或は根元に生ず。乾燥せるものは木質にして堅く。長く保存し得べし。古來靈芝「まんねんたけ」「さいはひたけ」等と稱し床飾として愛玩せらる。

ILLUSTRATIONS OF JAPANESE FUNGI

PUBLISHED BY

THE BUREAU OF FORESTRY

OF

THE DEPARTMENT OF AGRICULTURE AND COMMERCE

日本菌類圖譜

第三集

農商務省山林局

大正三年三月二十六日印刷
大正三年三月三十一日發行

農商務省山林局

東京市神田區通新石町三番地
印刷者 田中市之助

東京市神田區通新石町三番地
印刷所 合資會社東陽堂

東京市神田區通新石町三番地
發賣所 合資會社東陽堂
電話(本局九七〇)

ILLUSTRATIONS OF JAPANESE FUNGI

PUBLISHED BY
THE BUREAU OF FORESTRY
OF
THE DEPARTMENT OF AGRICULTURE AND COMMERCE

日本菌類圖譜

第三集

農商務省山林局

第三集　序言

本圖譜第二集は蕈菌類三十七種を收めて曩に出版したる所なるが今又第三集として蕈菌類二十六種を四個の圖版に製し之を公にするに至れり。本集圖版中には「おにふすべ」「からかさだけ」等を始め其の他形巨大なるもの多きを以て各圖版は僅かに菌類五種又は六種を容るゝに止りたり。

是等の原圖は一つも他の圖書より摹寫したるものなく盡く實物に就き寫生したるものに屬し「しようろ」「しひたけ」「けがはたけ」「からかさたけ」の四種は大石榮雄氏の寫生に係り他は予の畫く所なり。

第九圖版中「きつねのちやぶくろ」の圖は本菌の稍々老ひたるものを現はせり、此の菌は最初は白色にして且つ未だ頂上に孔を有せず。

第十圖版中「しひたけ」は蓋表面の狀態最普通なるものを示したり、本菌には往々表面に龜裂を有するものあり。同「まつおふじ」は明き場所に生じたる形態のものを現はせり、本菌の闇所に生じたるものは多く白色にして其の莖長し。

第十一圖版中「おにふすべ」は殼皮の剝離しつゝあるものを示したり、本菌の殼皮は最初全部滑かにして白色なり。

本集圖版製作に就ては前集同樣農商務技手大石榮雄氏を煩したり、玆に之を多謝す。

著　者　山林技師　川　村　淸　一

大正三年三月三十日

Tab.9. 第九圖版



1–3, *Clitocybe cyanophaea* Fr. ⊙……いぬむらさきしめぢ.
4–6, *Rhizopogon rubescens* Tul. ○……志ようろ.
7–10, *Nyctalis asterophora* Fr. growing on *Russula nigricans* (Bull.) Fr. ⊙ —やぐらたけ(くろはつだけ二寄生セリ).
11–13, *Pholiota caperata* Pers. ○ 志ようううんじ.
14–16, *Hygrophorus puniceus* Fr. ⊙…………ひいろがさ.
17–19, *Lycoperdon gemmatum* Batsch. ⊙…きつねのちやぶくろ.
20 *Clavaria amethystina* Bull. ⊙……むらさきはうきたけ.

ILLUSTRATIONS OF JAPANESE FUNGI

EXPLANATIONS OF PLATE IX

(1) Figs. 1—3. **Clitocybe cyanophaea** *Fr.* Jap. nam. *Inu-murasaki-Shimeji.*

Pileus 8—15 cm. in diameter, convex then plane, glabrous, brownish ; gills decurrent, crowded, violet ; stem about 10 cm. long, 1.5 cm. across at the base, attenuated upwards, solid. This fungus somewhat resembles Tricholoma personatum Fr., but distinct in the decurrent gills.

---

(2) Figs. 4—6. **Rhizopogon rubescens** *Tul.* Jap. nam. *Shōro.*

Obovate or subglobose, 2—4 cm. across, white at first, then brownish, becoming slightly reddish when bruised. Frequent in April to May in sandy pine woods, underground or partly exposed.

---

(3) Figs. 7—10. **Nyctalis asterophora** *Fr.* growing on Russula nigricans (*Bull.*) *Fr.* Jap. nam. *Yagura-daké.*

Pileus 1—2 cm. across, hemispherical, whitish then brownish, rather mealy. grows gregariously on decaying blackened specimen of Russula nigricans (*Bull.*) Fr.

---

(4) Figs. 11—13. **Pholiota caperata** *Pers.* Jap. nam. *Shōgunji.*

Pileus 5—12 cm. in diameter, margin wrinkled, gills adnate, tan-colour ; stem white, with membranaceous ring. The entire cap, especially in young stage, is covered with a white superficial particles.

---

(5) Figs. 14—16. **Hygrophorus puniceus** *Fr.* Jap. nam. *Hiirogasa.*

Pileus 6—10 cm. broad, flesh very thin, at first campanulate then conical, very beautiful crimson ; gills adnexed, ventricose ; stem hollow, whitish at the base.

---

(6) Figs. 17—19. **Lycoperdon gemmatum** *Batsch* Jap. nam. *Kitsune-no-chabukuro.*

Peridium subglobose, covered with brownish pointed warts which fall away, leaving circular scars over the surface. White when young, becoming grayish brown when mature. This plant is widely distributed and very common.

---

(7) Fig. 20. **Clavaria amethystina** *Bull.* Jap. nam. *Murasaki-hōki-také.*

This is a remarkably attractive plant and easily recognized by its violet colour. Fragile, very much branched or almost simple ; branches round even, smooth, obtuse.

(All figures are original, drawn from nature. S. Kawamura.)

日本菌類圖譜

第九圖版解說

(1) Figs. 1—3. (和名) **いぬむらさきしめぢ** (學名) **Clitocybe cyanophaea** *Fr.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—褶菌科.

蓋は徑三四寸、大なるは五寸に達し、表面茶褐色にして平滑なり。莖は白色にして內部充實す。褶は莖に垂生し紫色を呈す。本菌の褶は紫色にして「むらさきしめぢ」に酷似せるか故に誤認し易きも後者に於ては褶は莖に灣生すれとも本菌にありては常に褶は莖に垂生するか故に容易に識別し得へし。共に秋季に發生す。本菌は食用に供せす。

---

(2) Figs. 4—6. (和名) **しようろ** (學名) **Rhizopogon rubescens** *Tul.*
(所屬) 擔子菌門—腹菌族—松露科.

形塊狀にして徑五分乃至一寸、表面に多少根狀の菌絲を附著す。外皮は膜質にして白色なるも空氣に曝せは少しく紅色を發し後に灰黃色又は淡褐色を帶ふ。內部は初め白色なるも後黃色となり遂に褐色に化す、其組織は迷走せる小室より成り、胞子は其の中に生す。四五月頃多く海濱松樹下砂中に生す。胞子の未だ成熟せさるものを採りて食用に供す。

---

(3) Figs. 7—10. (和名) **やどらだけ** (學名) **Nyctalis asterophora** *Fr.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—褶菌科.

全體白色なる小菌にして別に利用の途なきものなれとも本菌は通常「くろはつだけ」の老朽せるものゝ上に生するか故に古來珍奇なるものとせり。斯の如く別種の菌上に生するもの他に數種あれとも其最多きは本菌なり。夏季富士山梅林中に多く產す。

---

(4) Figs. 11—13. (和名) **しようぐんじ** (學名) **Pholiota caperata** *Pers.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—褶菌科.

蓋は徑二寸乃至四寸、表皮は茶褐色にして往々淺き皺を有す。莖は長さ三寸乃至五寸にして白色、內部充實す。莖の中央に鍔を具ふれとも脫離し易きか故に鑑定の際注意を要す。本菌は廣く食用とせるに非されとも信濃國の南部にては「しようぐんじ」と稱し古來食用に供せり。秋季發生す。

---

(5) Figs. 14—16. (和名) **ひいろがさ** (學名) **Hygrophorus puniceus** *Fr.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—褶菌科.

蓋は徑二寸乃至三寸にして中央部突起し其の形笠の如く、緋色にして甚た美麗なり。莖は表面紅色或は黃色にして內部は空洞をなせり。蓋莖共に其肉極めて薄し。秋季發生す。食用に供せす。

---

(6) Figs. 17—19. (和名) **きつねのちやぶくろ** (學名) **Lycoperdon gemmatum** *Batsch.*
(所屬) 擔子菌門—腹菌族—土栗科.

擬寶珠形を呈し、下部は延ひて莖をなす。莖以外の部分の表面には疣狀突起を密布す。內部は初め白色なるも後黃色に變し。遂に胞子成熟するに及んて灰褐色となる、其時に至らは頂端に孔を生し胞子を散布す。胞子粉は褐色にして土塵の如く飛散するか故に本菌は一つに「ほこりたけ」と呼はる。古來世俗は本菌の類の胞子粉か吾人の耳眼に入るときは害あるものと想像し本菌の類を呼ふに「つんぼだけ」或は「めつぶれ」等の名を以てすれとも元來は其性無害にして且無毒なり。晩夏より秋にかけ路傍其の他に生す。

---

(7) Fig. 20. (和名) **むらさきほうきたけ** (學名) **Clavaria amethystina** *Bull.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—箒茸科.

樹枝狀或は鹿角狀に分岐せる菌にして紫色を呈す。故に amethyst (紫水晶) の字を用ひて學名とす。彼の「ほうきたけ」の枝の末端幾分か紅紫色を呈せるを以て之を「むらさきはいきたけ」と記せる書あれとも宜しからす、本菌は普通の「はうきたけ」に比して紫色一層濃厚なるものなり。玆に圖示せるものは幼稚にして小形なれとも往々高さ約三寸に達し、幹部太きものあり。秋季發生す。

Tab. 10. 第十圖版



1–4, *Cortinellus Shiitake* (Schröt.) P. Henn. ○ 志ひたけ.
5–6, *Collybia velutipes* (Curt.) Sacc. ○ えのきたけ(なめこ).
7–10, *Pseudocolus javanicus* Penzig. △……………さんこたけ.
11–12, *Pholiota Flammulans* Fr. ⊙……………はゐかさたけ.
13–15, *Lentinus lepideus* Fr. ○……………まつおふじ.
16–18, *Lentinus tigrinus* Fr. ⊙……………けがはたけ.
19–22, *Lactarius deliciosus* (L.) Schröt. ○……あかもみたけ(あかちたけ).

ILLUSTRATIONS OF JAPANESE FUNGI

EXPLANATIONS OF PLATE X

(1) Figs. 1—4. **Cortinellus Shiitake** (*Schröt*) *P. Henn.* Jap. nam. *Shii-také.*

Pileus 5—10 cm. across, margin incurved at first, surface scaly, dark brownish; gills sinuate, whitish; stem central or often excentric; remnant of ring woolly, sometimes almost absent; growing on the trunks of many kinds of Quercus.

---

(2) Figs. 5—6. **Collybia velutipes** (*Curt.*) *Sacc.* Jap. nam. *Enoki-také.*

Pileus 3—6 cm. across, yellowish with darker disc, smooth, very viscid when wet; gills adnexed; stem 5—10 cm. long, velvety hairy with dark hairs. Remarkable in enduring extremes of temperature, being one of the few agarics that flourish in winter.

---

(3) Figs. 7—10. **Pseudocolus javanicus** *Penzig* Jap. nam. *Sanko-také.*

A beautiful plant, consisting of three columns which are united at the top and at the bottom are consoludated into a stalk; odor offensive.

---

(4) Figs. 11—12. **Pholiota flammulans** *Fr.* Jap. nam. *Hanagasa-také.*

Pileus about 5 cm. in diameter, beautiful tawny yellow, with scattered, sulphur-coloured squamules; gills adnexed, yellow; stem 7—10 cm. long, hollow, rather flexuous, furnished with deep yellow squarrose squamules.

---

(5) Figs. 13—15. **Lentinus lepideus** *Fr.* Jan. nam. *Matsuōji.*

Pileus fleshy compact convex then depressed, unequal dingy ochraceous, becoming broken up into darker squamules; flesh white, tough; gills decurrent, irregularly toothed; stem stout tomentose or scaly, flexuous. This is a peculiar plant, growing sometimes to monstrous forms. It grows on dead pine, during early summer.

---

(6) Figs. 16—18. **Lentinus tigrinus** *Fr.* Jap. nam. *Kegawa-také.*

Pileus 5—10 cm. in diameter, convexo-plane at first, infundibuliform at length, furnished with brown pilous squamules; flesh thin; gills decurrent narrow, crowded; stem solid very hard. It grows on dead oak.

---

(7) Figs. 19—22. **Lactarius deliciosus** (*L.*) *Schröt.* Jap. nam. *Aka-momi-také.*

Pileus 5—12 cm. broad, convex at first, then depressed in the center, orange, often with concentric bands of a deeper colour; gills yellowish orange; stem same in colour as the pileus but paler. Every past abounding with a reddish orange milk.

(All figures are original, drawn from nature. S. Kawamura.)

日本菌類圖說

第十圖版解說

(1) Figs. 1—4. (和名) **しひたけ** (學名) **Cortinellus Shiitaké** (*Schröt.*) *P. Henn.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—襉菌科.

蓋は徑二三寸にして表面に黑褐色なる鱗被を有す。襉は莖に灣生し白色なり。蓋膜は綿毛狀をなし蓋の開展したる後は莖の上部に毛狀に其痕跡を殘す。本菌は本邦產食菌中產額の最多なるものなり。最近の調查に據るに商品として取扱はるゝものゝみにても其量二百萬斤、價百四十餘萬圓に達すと謂ふ。山中「しひ」「なら」等の枯幹に天然に發生するものなれとも多くは「しひ」「なら」「くぬぎ」「くり」「かし」「しで」「そろ」等の濶葉樹の幹を切りて地上に立かけ其中に種木を挿入し置くか或は他の方法により人工的に發生せしむ。春秋二季に發生すれとも秋季に最多し。乾物として貯へ廣く食用に供し、又海外に輸出す。

---

(2) Figs. 5—6. (和名) **えのきたけ** (學名) **Collybia velutipes** (*Curt.*) *Sacc.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—襉菌科.

蓋は徑一寸乃至二寸にして通常「えのき」「やなぎ」等の朽ちたる樹に大小多數叢生す。茶褐色にして粘性極めて强し故に「なめたけ」「なめこ」「なめすゝき」等の別名あり。莖は長くして下部に黑褐色の細毛を密生す。冬季諸菌の發生少き時季に生する食菌の一なれは生椎茸の代用品として珍重し食用に供す。椎茸の如く人工的に朽ちたる根株を土窟中に貯へ置きて本菌を發生せしむる者あり。

---

(3) Figs. 7—10. (和名) **さんこたけ** (學名) **Pseudocolus javanicus** *Penzig.*

(所屬) 擔子菌門—腹菌族—鼈茸科.

「きつねのゑふで」「きつねのたいまつ」等の如く子實層溶化して惡臭を發する菌なれとも紅色にして甚だ美麗なり。莖は三個に分岐して上端に於て再ひ合著せり。其樣佛具の三鈷に似たれは「さんこたけ」の名を命せり。晩夏より秋に亘り發生す。

---

(4) Figs. 11—12. (和名) **はながさたけ** (學名) **Pholiota flammulans** *Fr.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—襉菌科

蓋は徑二寸許にして美麗なる橙黃色を呈し、多くの黃色扁平なる鱗被を附著す。襉莖は共に深黃色なり。內部の肉も亦黃色なり。莖は表面に鱗被を有し中空なり。秋季樅樹の朽ちたるものに生す、山中にては夏季に發生することあり。

---

(5) Figs. 13—15. (和名) **まつおふじ** (學名) **Lentinus lepideus** *Fr.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—襉菌科.

形大小種々あり肉は白色なれとも蓋の上面及ひ莖の下部の表面には褐色の鱗被を有す。襉は白色にして其の緣邊幾分か鋸齒狀を呈す。五六月頃松樹の朽ちたるものに發生す。山野に生するのみならす往々家屋の床下橋梁等に用ひられたる松材に生する事あり。初夏に生する食用菌にして且松樹に生するか故に誤りて「さまつたけ」と呼ふ者あり。

---

(6) Figs. 16—18. (和名) **けがはたけ** (學名) **Lentinus tigrinus** *Fr.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—襉菌科.

全體「まつおふじ」に似て肉薄し。蓋の表面は毛狀の鱗被を以て被はれ且斑紋を有す。故に虎斑を意味して學名に tigrinus (虎)の字を用ふ。六月頃「かし」其他の枯木に生す。

---

(7) Figs. 19—22. (和名) **あかもみたけ** (學名) **Lactarius deliciosus** (*L.*) *Schröt.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—襉菌科.

蓋は徑二三寸にして充分生長したるものは皆漏斗狀を爲す。表面滑かにして若きものは明瞭なる同心環紋を現せり。蓋莖襉總て淡橙黃色、肉は脆質にして其の色淡紅、傷付たる部分より橙黃色の乳汁を分泌す。莖の內部は空洞をなせり。曾て故田中延次郎氏は植物學雜誌第四卷第四十五號に我邦の「あかはつ」を歐米のLactarius deliciosus (L.) Schröt に比較して區別あるものと爲し與ふるに L. Akahatsu Tanaka なる新學名を以てせり。然れとも本菌「あかもみたけ」は學名 L. deliciosus (L.) Schröt なるものに該當し同時に「あかはつ」に酷似し殆んと區別する能はさるものなり。十月又は十一月頃山中樅林中に最多く生す。玆には暫く故田中氏の說に從ひ之を別種と看做し、予か大正元年十月下旬武藏國高尾山に採集寫生したるものを載せ、常陸國筑波山地方の呼稱を採りて「あかもみたけ」の名を用ひたり。



1–2, *Calostoma japonicus* P. Henn. ⊙——くちべにたけ.

3–4, *Clitocybe pelletieri* Lev. ⊙——きひだたけ.

5 , *Lasiosphaera Fenzlii* Reich. ○——おにふすべ.

6–7, *Calvatia craniformis* Schw. ○——のうたけ.

8–10, *Lepiota acutesquamosa* Wein. ⊙——たにたけ.

11–17, *Bulgaria polymorpha* (Oeder) Fr. ⊙——ごむたけ.

ILLUSTRATIONS OF JAPANESE FUNGI

EXPLANATIONS OF PLATE XI

(1) Figs. 1– 2. **Calostoma japonicus** *P. Henn.* Jap. nam. *Kuchibeni-také.*

Peridium globular, dingy yellow ; stem thick, consisting of entangled strands. It is remarkable for the brilliant vermilion colour of the inner surface of the exoperidium.

---

(2) Figs. 3—4. **Clitocybe Pelletieri** *Lev.* Jap. nam. *Kihida-také.*

Pileus 4—7 cm. across, flat, slightly depressed at the centre when old, chestnut-brown, subtomentous; flesh whitish, then yellowish ; gills chrom yellow, large connected with veins at the base ; stem often bent, slightly tapering toward the base, yellowish, solid.

---

(3) Fig. 5. **Lashiosphaera Fenzlii** *Reich.* Jap. nam. *Onifusube.*

This is the largest species among Lycoperdons in Japan, reaching 30 cm. or more in diameter, white when young, dusky when mature. It grows on the ground in bamboo forests during late summer and in the autumn.

---

(4) Figs. 6—7. **Calvatia craniformis** *Schw.* Jap. nam. *Nōtaké.*

Peridium large, obovoid, depressed above, 9—12 cm. across, cortex reddish brown, easily peeling off, often wrinkling to resemble somewhat the surface of the brain. The upper part, after maturity, breaks into fragments and falls away, leaving the cup-shaped sterile part ; found during autumn.

---

(5) Figs. 8—10. **Lepiota acutesquamosa** *Wein.* Jap. nam. *Oni-také.*

Pileus about 10 cm. across, flesh thick, firm, hemispherical when young, then convex, ferruginous, rough with many pointed brown erect scales ; stem stuffed or hollow, silky-fibrillose above, swollen at the base ; gills quite free from the stem ; veil floccose.

---

(6) Figs. 11—17. **Bulgaria polymorpha** (*Oeder*) *Fr.* Jap. nam. *Gomutaké.*

Ascophore gelatinous elastic, at first closed, then expanded, rusty-brown, umber-brown, wrinkled, disc 1—4 cm. across, and the same in hight ; ascus cylindrical, spores elliptical, brown at maturity.

(All figures are original, drawn from nature, S. Kawamura.)

日 本 菌 類 圖 說

第 十 一 圖 版 解 說

(1) Figs. 1—2. (和名) **くちべにたけ** (學名) **Calostoma japonicus** *P. Henn.*

(所屬) 擔子菌門—腹菌族—口紅茸科.

「つちぐり」に近邇の小菌にして球狀なる頭部と、根の如きもの多數集りて成れる莖部とを有す。頭部は外皮白色にして頂端に小孔あり。孔の口邊紅色を呈す故に「くちべにたけ」の名あり。本菌は頭部の徑五分許なる小菌にして九、十月頃路傍丘麓等に生す。

---

(2) Figs. 3—4. (和名) **きひだたけ** (學名) **Clitocybe Pelletieri** *Lev.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—襴菌科.

蓋は徑二寸許にして闇褐色をなし、多少天鵞絨様の觸感あり。襴は黃色にして幅廣く、緣邊波狀をなし、底部には脈狀隆起ありて相隣れる襴間を連絡す、莖に直生又は垂生す。莖は多少彎曲し且底部に向つて細まれり、表面は其の色襴に等しく、內部は充實す。肉は白色後少しく黃色を帶ぶ。秋季地上蘚類中に生す。

---

(3) Fig. 5. (和名) **おにふすべ** (學名) **Lashiosphaera Fenzlii** *Reich.*

(所屬) 擔子菌門—腹菌族—土栗科.

「きつねのちやぶくろ」の類中最巨大なるものにして往々徑一尺に餘るものあり。其の形球狀にして西瓜の如し。外皮は白色、內皮は黃色にして紙の如く薄し、又內外兩皮間に褐色の層あり。初めは內部に多量の水分を含有して其の量頗る重きも、外皮の剝離すると同時に水分浸出して、遂に綿塊の如く輕く且彈力に富めるものと成り、手を以て打つときは灰の如く褐色にして輕き胞子を散布す。十月頃能く竹林中に發生す、故に「やぶだま」とも稱す。內部の白色なる間は食用に供し得へし。

---

(4) Figs. 6—7. (和名) **のうたけ** (學名) **Calvatia craniformis** *Schw.*

(所屬) 擔子菌門—腹菌族—土栗科.

本菌も亦「きつねのちやぶくろ」の類中「おにふすべ」に次て大形なるものなり。表皮は茶褐色にして腦に於けるか如き皺を有するを常とす。頭部は普通徑三四寸にして下部は細まりて莖を成す。秋季多く朽ちたる樹根の存する地上に數個群生す。「おにふすべ」は巨大にして白色、球狀、無莖なれども本菌は之に比して小形、茶褐色、且有莖なり。

---

(5) Figs. 8—10. (和名) **おにたけ** (學名) **Lepiota acutesquamosa** *Wein.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—襴菌科.

蓋は徑普通二三寸にして中央少しく突起す、茶褐色にして全面に突起せる銳き鱗被を有す。本菌の學名 acutesquamosa (銳き鱗被)は實に此顯著なる特性あるに因る。襴は莖に離生し、白色又は少しく黃色を呈す。莖は長さ三四寸にして內部管狀をなし、下端稍々膨大す、上部に大なる鍔を有し、鍔より上部は莖白色、鍔の裏面及び鍔より下部は莖茶褐色なり。秋季庭園內或は林中に生す。

---

(6) Figs. 11—17. (和名) **ごむたけ** (學名) **Bulgaria polymorpha** (*Oeder*) *Wettst.*

(所屬) 子嚢菌門—盤菌族—護謨茸科.

朽木に生する小菌にして初めは倒卵形を呈し其の上部は椀狀をなせとも後には擴りて楯狀を成す。上面は圓盤狀をなし黑色にして其の徑約一寸。他の部分は外面及び內部の肉共に褐色なり。子嚢は圓柱狀、胞子は楕圓形にして闇褐色なり。



1-4, *Lepiota procera Scop.* ○………………からかさだけ.
5-7, *Agaricus (Psaliota) placomyces Pk.* ○…はらたけもどき.
8-9, *Laternea bicolumnata Lloyd* ⊙………かにのつめ.
10, *Clavaria botrytes Pers.* ○………………はうきたけ.
11-12, *Cordyceps sobolifera (Hill) Berk.* ⊙……せみたけ.
13-15, *Hydnum auriscalpium L.* ⊙………………まつかさだけ.

ILLUSTRATIONS OF JAPANESE FUNGI

EXPLANATIONS OF PLATE XII

(1) Figs. 1—4. **Lepiota procera** *Scop.* Jap. nam. *Karakasa-také.*

Pileus 7—15 cm. broad, oval, then bell-shaped, finally expanded, with a more or less prominent elevation at the center; cuticle brown, broken up into broad flat scales; flesh whitish; gills remote from the stem, crowded; stem 15—30 cm. high cylindrical, hollow, swollen below; blotched with brown scales; ring persistent, often can be moved up and down on the stem. It grows in gardens, pastures, during autumn and in last part of summer.

---

(2) Figs. 5—7. **Agaricus (Psaliota) placomyces** *Pk.* Jap. nam. *Haratakemodoki.*

Pileus 5—12. in diameter, broadly ovate when young, then expanded, whitish with minute brownish scales; gills pink then blackish brown, free from the stem; stem hollow or stuffed, sooth, whitish, bulbous; veil broad, double.

---

(3) Figs. 8—9. **Laternea biculumnata** *Lloyd* Jap. nam. *Kani-no-tsume.*

Receptacle consists of two columns united at the top and free at the bottom; columns spongy, slightly compressed, pale reddish yellow but whitish at the base; odor offensive.

---

(4) Fig. 10. **Clavaria botrytes** *Pers.* Jap. nam. *Hōki-také.*

Fragile, fleshy, basal portion white, very thick, passing into numerous crowded branches, which are reddish-purple tipped; spores white. It may be distinguished from *Clavaria formosa Pers.* which has yellowish spores. It is found in woods, during autumn.

---

(5) Figs. 11—12. **Cordyceps sobolifera** (*Hill.*) *Berk.* Jap. nam. *Semi-také.*

Club-shaped, 2—5 cm. in hight, head reddish-brown, some times deer-horn shaped, often two or three sporophores spring from one insect, parasitic on the pupa of cicads. Grows in lawn during summer, common in Japan.

---

(6) Figs. 13—15. **Hydnum auriscalpium** *L.* Jap. nam. *Matsu-kasa-také.*

Pileus about 1.5 cm. across, thin, dark purplish-brown, reniform; stem about 6 cm. high, slender, dark-brown, tomentose, terminating in a shagy root, which is fixed to the cone of pine or some other coniferae. It is found in woods, from March to April.

(All figures are original, drawn from nature. S. Kawamura.)

日 本 菌 類 圖 說

第十二圖版解說

(1) Figs. 1—4. (和名) **からかさたけ** (學名) **Lepiota procera** *Scop.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—褶菌科.

蓋は徑四寸乃至九寸にして中央突起す。上皮は褐色にして下層の生長に伴はず分裂し扁平なる鱗被となりて表面に散在す。褶は幅廣く莖より全く分離し深く蓋の肉中に插入す。莖は細長く常に眞直にして中空、其下部は常に膨大なり。鍔は頗る大にして莖の上部に存す。本菌は其の形最能く唐傘に似たり。又莖の下端膨大なること、鍔を有すること、蓋の表面に褐色なる鱗被の散在せること等總て毒菌「てんぐたけ」の類に似たる所あれとも其の性無毒なり。本菌は褶菌科菌類中形最巨大なるものにして往々高さ二尺に餘るものあり。晩夏又は初秋の候に發生し、食用と爲す。

---

(2) Figs. 5—7. (和名) **はらたけもどき** (學名) **Agaricus (Psaliota) placomyces** *Pk.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—褶菌科.

蓋は幼稚なるときは略々卵形をなし老ひて扁平となる、其の徑三四寸とす、表面に細かなる鱗被を密布するか故に褐色を呈し、中央部は其の色最濃厚なり。褶は莖に離生し初め白色なるも胞子成熟の後は遂に黑褐色となる。莖は表面白色にして平滑、內部管狀をなし、下部膨大す。蓋膜は廣くして二層よりなる、外層は剝離し去るも內層は鍔となりて殘存す。晩夏及秋季に生す。

---

(3) Figs. 8—9. (和名) **かにのつめ** (學名) **Laternea biculumnata** *Lloyd.*

(所屬) 擔子菌門—腹菌族—籠茸科.

初め雀卵の如く球狀を成し,軈て殼皮を破りて二個の莖を抽出す。莖は長さ二寸許にして上端に於て相合し,下部は白色なるも上部は黃色を呈し上端は赤色なり。子實層は莖の上部內側にあり、溶化して褐色の粘液となり、惡臭を放つ。秋季路傍に生す。本菌は本邦以外には未た發見せられさるものなり。

---

(4) Fig. 10. (和名) **ほうきたけ** (學名) **Clavaria botrytes** *Pers.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—箒茸科.

下部は一個の太き莖を爲し,上部は樹枝の如く分岐す。故に「ほうきたけ」の名あり。小枝の末端部は淡紅紫色を呈す。本菌は「ほうきたけ」の諸種中最多肉にして枝比較的太短かく形一般に巨大なり。廣く食用に供す。秋季發生するものなれとも深山には夏季にも發生することあり。本菌屬の諸菌は分枝せる榛鼠の手足に似たるもの多けれは總稱して「ねずみで」「ねずみあし」等とも呼ぶ。

---

(5) Figs. 11—12. (和名) **せみたけ** (學名) **Cordyceps sobolifera** (*Hill.*) *Berk.*

(所屬) 子囊菌門—核菌族—麥角菌科.

冬蟲夏草の一種にして蟬の蛹に寄生す。蟲體の頭部より棍棒狀又は鹿角狀の莖を抽き其の先端稍々脹れて子實層を造る。我邦には多く產すれとも歐米諸國には蟬少きか爲本菌も亦從つて其の產出稀なり。

---

(6) Figs. 13—15. (和名) **まつかさたけ** (學名) **Hydnum auriscalpium** *L.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—皮茸科.

蓋は腎臟形にして闇褐色,徑約五分。蓋の下面には針狀突起を密生す。莖は長さ二寸許にして蓋の一側に附著し全表面に細毛を密布す。革質にして乾燥するも原形を存す。三四月頃松の毬果の地上に落ちて朽ちつゝあるものゝ上に生す。全形杓子に似て可憐なる小菌なり。

ILLUSTRATIONS OF JAPANESE FUNGI

PUBLISHED BY

THE BUREAU OF FORESTRY

OF

THE DEPARTMENT OF AGRICULTURE AND COMMERCE

日本菌類圖譜

第四集

農商務省山林局

大正三年十一月二十五日印刷
大正三年十一月二十八日發行

農商務省山林局

東京市神田區通新石町三番地
印刷者　須佐權平

東京市神田區通新石町三番地
印刷所　合資會社東陽堂

東京市神田區通新石町三番地
發賣所　合資會社東陽堂
電話（本局九七〇）

ILLUSTRATIONS OF JAPANESE FUNGI

PUBLISHED BY

THE BUREAU OF FORESTRY
OF
THE DEPARTMENT OF AGRICULTURE AND COMMERCE

日本菌類圖譜

第四集

農商務省山林局

第四集　序言

玆に草菌類二十五種に就き予が寫生畫中より適當なるものを選び複寫して四個の圖版中に收め本圖譜第四集として之を公にするに至れり。

二十五種中十種は食用菌に屬し就中「しめぢ」「かうたけ」「きくらげ」「さまつ」等は本邦人の最も好む所たり。

「てんぐたけ」は「はいとりたけ」とも稱し毒素ムスカリンを含有し其の性猛毒なること「べにてんぐたけ」に劣らざるに其の色の鮮美ならざると味、臭氣等に怪むべき所なきを以て世人中本菌を他の食用菌と誤認して喰ひ中毒するもの毎年秋季本菌發生の季節には其の數少しとせず。

「やなぎたけ」は未だ其の毒性毒分明かならざれども有毒なる場合多きが如し先年日光町にて一家族中一老婆を殘し他皆菌中毒の爲死亡せしことありて栃木縣廳より予が許に送られたる標本竝に曾て新潟地方にて菌中毒者を出せしことありて當時醫學博士岩川克耀氏より種類鑑定の爲予が許に送られたる標本等は孰れも小片にして品種を明確に知る能はざりしも予は該標本を検して「やなぎたけ」と異る所を發見する能はざりき本菌の邦名「やなぎたけ」は從前用ひられたるものなれども本菌は柳樹に生ぜずして通常杉松等の朽木に群生す。

其の他本圖譜中に特に食用有毒と明示せざるものの中には食用として可なるもの或は毒性あるもの等にして未だ明確に性狀の知られざるもの等は皆之を包含することと知るべし。

東京理科大學植物學教室にて

大正四年三月三十日　　著者　川村清一誌す



1–2, *Polyporus sulphureus* Fr. ○ ………… ますたけ

3, *Hydnum erinaceus* Bull. ○ ………… やまぶしたけ

4–5, *Hydnum (Phaeodon) aspratus* Berk. ○ かうたけ

6–7, *Auricularia (Hirneola) auricula judae* L. ○ ………… きくらげ

8–10, *Tricholoma Shimeji* Kawamura. ………… しめぢ

11–12, *Cordiceps capitata* Fr. ⊙ ………… たんぽたけ

ILLUSTRATIONS OF JAPANESE FUNGI

EXPLANATION OF PLATE XIII

(1) Figs. 1—2. **Polyporus sulphureus** *Fr.* (*Polyporus caudicinus Schröt.*) Jap. nam. *Masutaké.*

Pileus sessile, upper surface orange-red or salmon color; flesh rosy and tender when young, but it becomes white, corky when old and dry up; pore surface bright sulphur-yellow, pores minute, short; spores white, elliptical. It is one of the widely distributed species, and grows on dead oak. Occurs from August to November. When young and tender this plant is eatable.

---

(2) Fig. 3. **Hydnum erinaceus Bull.** Jap. nam. *Yamabushi-také.*

Pileus 6—24 cm. in diameter, whitish; fleshy, tough; spines straight and hang downwards very long attaining 4 cm. or more long; spores white subglobose, smooth. It grows on dead trunks. Found from July to October.

---

(3) Figs. 4—5. **Hydnum** (*Phaeodon*) **aspratus Berk.** Jap. nam. *Ko-také.*

Pileus funnel-shaped, brackish brown, very much scaly; spines crowded decurrent; spores pale brown, subglobose. It is found from September to October. Distinguishable from other species resembling it in color and form, by the fragrant smell.

---

(4) Figs. 6—7. **Auricularia** (*Hirneola*) **auricula judae L.** Jap. nam. *Kikuragé.*

Thin and elastic, brownish flesh-color when moist, rigid and blackish when dry; under surface minutely velvety; spores white, reniform. Grows in clusters, on dead trunks. It is widely used for food.

---

(5) Figs. 8—10. **Tricholoma Shimeji Kawamura.** Jap. nam. *Shimeji.*

Pileus globose blackish then expanded grayish; gills sinuate; spores subglobose, white; stem white very large bulbous, solid, fibrous, smooth. It is very much esteemed for food.

Occurs in large clusters, several or many joined at their bases.

---

(6) Figs. 11—12. **Cordiceps capitata.** *Fr.* Jap. nam. *Tampotaké.*

Capitate, cup ovate, stem yellowish then blackish. This fungus is parasitic on the another fungus called Elaphomyces granulatus which grows two or three inches below the surface of the ground.

(*S. Kawamura.*)

日 本 菌 類 圖 譜

第十三圖版解說

(1) Figs. 1—2. (和名) **ますたけ** (學名) **Polyporus sulphureus** *Fr.*
[Polyporus caudicinus (Schaeff.) Schört.]
(所屬) 擔子菌門一帽菌族一多孔菌科

「さくら」「ぶな」「なら」等の樹木に寄生する害菌の一にして常に多數相重りて發生す。形「ひらたけ」に似たれども莖を缺けり又多孔菌なるが故に蓋の裏面には細孔を密布す。蓋の表面は橙黃色又は朱色にして裏面は鮮黃色なり。肉は淡黃色を呈す故に鱒茸の名あり。老成するに從ひ次第に褪色し乾燥するに及び白色となり且極めて輕疎にして火に燒け易きものと化す。故に本菌の枯乾せるものを「ほくちたけ」と云ふ。本菌の新鮮なるものは之を食用に供す。

---

(2) Fig. 3. (和名) **やまぶしだけ** (學名) **Hydnum erinaceus** *Bull.*
(所屬) 擔子菌門一帽菌族一皮茸科

「しひのき」「くぬぎ」「いちゐがし」等の樹木に寄生し人頭大或は往々夫れ以上の大なる瘤狀の結實體を生ず初め白色後少しく淡黃褐色を帶び表面に下向せる棘狀の子實層托を密生す。肉質にして軟く食用に供し得べし。

---

(3) Figs. 4—5. (和名) **かうたけ** (學名) **Hydnum** (Phaeodon) **aspratus** *Berk.*
(所屬) 擔子菌門一帽菌族一皮茸科

全體漏斗狀をなし黑褐色を呈す。漏斗の內側卽ち蓋の表面には多數の鱗被を有す。蓋の裏面には下向せる褐紫色にして棘狀なる子實層托を密生す。本菌は上述の「やまぶしたけ」に比するに胞子の色褐白の差異あるが故に本菌の屬を別ちて "Phaeodon" となせども爰には便宜の爲 "Hydnum" 屬として其の學名を示す。乾燥せば著しき芳香を放つ。秋季林中地上に發生し廣く本邦人の食用とする茸にして其價不廉なり。「かはたけ」とも云ふ。

---

(4) Figs. 6—7. (和名) **きくらげ** (學名) **Auricularia** (Hirneola) **auricula judae** *L.*
(所屬) 擔子菌門一木耳族一木耳科

諸種の濶葉樹に寄生し雨後に結實體を發生す其の形人類の耳に似たれば漢名を木耳とし其の學名も亦 "Auricuaria" (耳の義) とす。濕へる時は寒天の如く透明軟質にして且彈力性に富む。古來普く食用に供せり降雨の季節に最も多く生ず。木耳類に桂花木耳, 白木耳, 黑木耳等あれども皆「きくらげ」とは別屬の菌なり。

---

(5) Figs. 8—10. (和名) **しめぢ** (學名) **Tricholoma Shimejie Kawamura.**
(所屬) 擔子菌門一帽菌族一糰菌科

蓋は初め小さく且球狀にして闇色を呈す。莖は白色にして概ね太く且下部膨大なり。本菌は食用種として「まつたけ」と竝び賞せらる。俗に「香まつたけ, 味しめぢ」と稱し松蕈は其の香氣を賞し「しめぢ」は美味なるを以て蕈中第一なりと云へる程なり。秋季稍諸菌に遲れて生ず。多數塊狀をなし莖の下部は合著せるを常とす。故に「かぶしめぢ」とも云ひ亦「せんぼんしめぢ」とも稱ふ。其の他「だいこくしめぢ」「ひやっぽんしめぢ」等の名あり我邦の特產とす。

---

(6) Figs. 11—12. (和名) **たんぽたけ** (學名) **Cordiceps capitata** *Fr.*
(所屬) 子囊菌門一核菌族一肉座菌科

Elaphomyces cervinus (pers.) Schröt. と稱する球狀なる腹菌族の他菌に寄生して長さ約二寸徑二三分なる莖を抽き其の頂端に徑約五分の黑色球狀なる肉座を造り肉座中に埋藏せる子囊を生ず。秋季に發生し食用に供せず。



1–2, *Psalliota (Agaricus) campestris (L.) Fr. var. silvicola Vitt.* ○ ………… たはらたけ

3–4, *Hydnum (Phaeodon) imbricatum L.* ⊙ ………… ししたけ

5–6, *Boletus bovinus L.* ○ あみたけ（しばたけ）（しばいくち）

7–9, *Scleroderma vulgare Horn.* ○ ………… にせしようろ

10–13, *Boletus scaber (Bull.) Fr.* ⊙ ………… やまいくち

14–15, *Morchella deliciosa Fr.* ○ ………… あしぼそあみかさたけ

16, *Morchella crassipes Pers.* ⊙ ………… あしぶとあみかさたけ

ILLUSTRATIONS OF JAPANESE FUNGI

EXPLANATION OF PLATE XIV

(1) Figs. 1—2. **Psalliota** (*Agaricus*) **campestris** (*L.*) *Fr.* var. **silvicola** Vitt. Jap. nam. *Ōharataké.*

Pileus convex then expanded, smooth, shining, white or yellowish ; gills crowded, free, rounded behind, pinkish, finally blackish-brown ; stem long, hollow, often bulbous, ring large ; spores elliptical, purple-brown. It is found from July to October in the woods. Edible.

---

(2) Figs. 3—4. **Hydnum** (*Phaeodon*) **imbricatum** *L.* Jap. nam. *Shishi-také.*

Pileus plane or depressed, grayish, dark, with overlapping triangular scales ; stem solid, stout, of equal thickness ; spines grey. Grows on the ground in pine woods.

---

(3) Figs. 5—6. **Boletus bovinus** *L.* Jap. nam. *Ami-také.*

Pileus convex then plane, thinner at margin, pale reddish-yellow, shining when dry, viscid when moist ; tubes very shallow, not easily separating from the pileus ; stem equal, even, colored like pileus at base, apex often yellow ; spores elongato-fusiform, olive. Occurs in the woods during authumn.

---

(4) Figs. 7—9. **Scleroderma vulgare** *Horn.* Jap. nam. *Niseshoro.*

Peridium thick, broken up into minute rigid scales ; trama white ; spores globose, warted, blackish-purple. Grows on ground under trees in rainy season.

---

(5) Figs. 10.—13. **Boletus scaber** (*Bull.*) *Fr.* Jap. nam. *Yama-ikuchi.*

Pileus convex, smooth, viscid when moist, color from nearly white to blackish ; flesh white ; tubes white, long, mouths minute, round ; stem solid, long, dingy white, roughened with blackish-brown scales. It is found in mountainous districts from June to October.

---

(6) Figs. 14—15. **Morchella deliciosa** *Fr.* Jap. nam. *Ashiboso-amigasa-také.*

Pileus cylindrical or nearly so ; stem white bulbous at base shorter than pileus. Occurs in early summer. Edible, but it is not yet widely used for food in this country.

---

(7) Fig. 16. **Morchella crassipes** *Pers.* Jap. nam. *Ashibuto-amigasa-také.*

Pileus broadly conical-ovate, brownish, pits large irregular in form, not longer than broad, hollow ; stem 2—3 times as long as the pileus and almost as broad at the base, hollow, the cavity continuous with that of the pileus. Grows on the ground in spring. (*S. Kawamura.*)

日 本 菌 類 圖 譜

第 十 四 圖 版 解 說

(1) Figs. 1—2. (和名) **おほはらたけ** (學名) **Psalliota** (Agaricus) **campestris** (L.) *Fr.* var. **silvicola** Vitt.

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—du菌科

「はらたけ」には變種多し本菌は其の形最大なるものにして秋季雜木林中に發生す，普通の「はらたけ」は元來野外にも產するものにして其の學名"Campestris"は原野の義なれば之を譯して「はらたけ」と呼ぶ程なれども古來歐米諸國にては人家に地下室又は窖を設けて盛に培養し蔬菜同樣之を食用に供せり。「はらたけ」の類は總て莖に明瞭なる鍔を有し外觀は毒菌「てんぐたけ」の類に似たれども胞子の色黑褐なるが爲識別し得べし。蓋の表面黃褐色にして平滑なり肉は白色，襇は莖に離生す。莖は下端稍々膨大し內部中空なり。

---

(2) Figs. 3—4. (和名) **ししたけ** (學名) **Hydnum** (phaeodon) **imbricatum** *L.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—皮茸科

黑褐色にして蓋は漏斗狀を呈し表面には顯著なる鱗被を有す。本菌の學名"imbricatum"は鱗被が瓦狀に相重れるを意味す。蓋の裏面には褐紫色なる棘狀の子實層托を密生す。莖は短く內部充實す。食用に供せず。本菌に似たる食菌「かうたけ」は乾燥せば著しく香氣を發し且「うすたけ」の如く漏斗狀を成せる蓋の下底は深く莖の內部に達せるを以て本菌と區別するを得べし。

---

(3) Figs. 5—6. (和名) **あみたけ** (しばたけ)(しばいくち) (學名) **Boletus bovinus** *L.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—多孔菌科

「いくち」の一種にして蓋の表皮は黃褐色を呈し濕へるときは粘性を有す。肉は淡黃色蓋の裏面の管孔は多角形網狀をなし他の「いくち」類に比して管孔大なり。秋季原野に多く生ず。採りて乾燥し貯へ置きて普通煮豆等に和して食用に供す但し食菌中の劣等品なりとす。

---

(4) Figs. 7—9. (和名) **にせしようろ** (學名) **Scleroderma vulgare** *Horn.*

(所屬) 擔子菌門—腹菌族—僞松露科

形「しようろ」の如く球狀又は塊狀にして初夏の候に多く「しひのき」の樹下に群生す。表皮は網狀に龜裂するを常とし成熟したるものは內部紫闇褐色となり且乾燥して綿の如く化し。表皮は頂部に於て破れて中より粉狀なる胞子を飛散す。食用に適せず。

---

(5) Figs. 10—13. (和名) **やまいくち** (學名) **Boletus scaber** (Bull.) Fr.

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—多孔菌科

蓋の表皮は茶褐色又は黑褐色にして肉は淡紫灰白色。莖は蓋の直徑の二倍以上の長さあり下部稍膨大し鍔を缺く，表面には網狀の黑線を現せり。秋季山地に生ず。食用に供せず。

---

(6) Figs. 14—15. (和名) **あしぼそあみがさたけ** (學名) **Morchella deliciosa** *Fr.*

(所屬) 子囊菌門—盤菌族—網笠茸科

「とがりあみがさたけ」に近き種類にして「あみがさだけ」類中形最小なるものなり。莖細く且短きを以て他種と判別し得べく，往々數個群生す。食用となし得べし。總て本菌の類は初夏に發生するを普通とすれども亦十月頃にも生ずることあり。

---

(7) Fig. 16. (和名) **あしぶとあみがさたけ** (學名) **Morchella crassipes** *Pers.*

(所屬) 子囊菌門—盤菌族—網笠茸科

「あみがさだけ」中形大なるものゝ一なり。頭部球狀をなし網狀の壠起は他の「あみがさだけ」に於けるが如く肥厚せずして膜狀をなす，莖は甚だ太く且長くして肉に乏し。頭部莖部は共に內部一大空洞をなせり。初夏の候に產す。

Tab.15. 第十五圖版



1—2, Tricholoma colossum Fr. ○ ………… さまつたけ

3— Lycoperdon floccosum Lloyd. ⊙ … たはぎつねのちやぶくろ

4—7, Schizophyllum commune Fr. ⊙ …… すゑひろたけ

8—9, Exidia glandulosa (Bull) Fr. ⊙ ………… くろきくらげ

10—14, Polyporus arcularius Fr. ⊙ ………… あみすぎたけ

15—16, Polyporus squamosus Fr. ⊙ …… あみひらたけ(ちやうちはたけ)

ILLUSTRATIONS OF JAPANESE FUNGI

EXPLANATION OF PLATE XV

(1) Figs. 1—2. **Tricholoma colassum** *Fr.* Jap. nam. *Samatsu-také.*

Pileus 18—25 cm. across, convex then expanded, brick-red, darkish-red at the disc, at length broken up in minute squamules; flesh 6 cm. and more thick; gills rounded behind, crowded, whitish, then becoming pale brick-red; stem 9—15 cm. long, hard, solid, base usually bulbous, colored like pileus. Occurs in the woods during summer.

---

(2) Fig. 3. **Lycoperdon floccosum** *Lloyd* Jap. nam. *Ōkitsune-no-chabukuro.*

Pyriform, rather umbonate; peridium thin and flaccid floccose, becoming smooth, dehiscing by a small torn opening; furnished with numerous rooting white strands of mycelium at the base. It is one of the largest species of Lycoperdon.

---

(3) Figs. 4—7. **Schizophyllum commune** *Fr.* [*Schizophyllum alneum* (*L.*) *Schroet.*] Jap. nam. *Suehiro-také.*

Pileus tomentose, 1—3 cm. across, margin incurved; gills deeply split along edge, and strongly revolute. It is common on twigs or branches and occurs almost the year round. During dry weather it is much shrunken and curled up, but during rains it expands quickly and then it is seen in its beauty.

---

(4) Figs. 8—9. **Exidia glandulosa** (*Bull.*) *Fr.* Jap. nam. *Kuro-kikuragé.*

Gelatinous, flattened, often wrinkled, thick, greyish brown at length black, covered with minute papillae; below greyish; spores reniform It grows on dead branches of Quercus.

---

(5) Figs. 10—14. **Polyporus arcularius** *Fr.* Jap. nam. *Amisugitaké.*

Pileus brownish, minutely scaly, umbilicate; openings of tubes oblong almost diamond-shape; stem dark brown, hollow. Grows on decayed wood in from May to June.

---

(6) Figs. 15—16. **Polyporus squamosus** *Fr.* Jap. nam. *Amihira-také.*

Pileus fleshy, fan-shaped, flattened, somewhat ochraceous, with scattered, brown scales; stem lateral, blackish; openings of tubes angular and torn. Found on trunks and stumps from May to October. (*S. Kawamura.*)

日 本 菌 類 圖 譜

第十五圖版解說

(1) Figs. 1—2. (和名) **さまつたけ** (學名) **Tricholoma colossum** *Fr.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—襉菌科

外觀は「まつたけ」に似て，香氣なく且襉を被へる膜及莖に於ける鍔等を缺く。蓋及莖の表面は赤褐色を呈し肉は白色なり。莖は下部少しく膨れ內部充實す。襉は莖に離生又は少しく灣生す,「まつたけ」に比して水分に富む。晩夏初秋の候に生ずるが故に早松茸の名あり廣く食用に供す。本菌には往々形巨大なるものあるが故に學名の "colossum" は巨大を意味す。「まつたけ」の夏季に生ぜしものをも世俗「さまつたけ」と呼ぶが故に往々本菌と混同せらる。

---

(2) Fig. 3. (和名) **おほきつねのちやぶくろ** (學名) **Lycoperdon floccosum** *Lloyd.*
(所屬) 擔子菌門—腹菌族—狐の茶袋科

頭部は球狀にして下部は細く延ひて莖に移行す。全形は「きつねのちやぶくろ」に似たれども頭部は彼の如く著しき疣狀突起を以て被はるゝことなく代るに粉狀の柔毛を以てせり。老いたるものにありては柔毛を失ひて平滑なることあり高さ二三寸頭部徑一寸五分乃至二寸，頭部の中央に裂孔を生じ褐色なる胞子を散布す，秋季山地に生ず。

---

(3) Figs. 4—7. (和名) **すゑひろたけ** (學名) **Schizophyllum commune** *Fr.*
[Schizophyllum alneum (L.) Schraet.]
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—襉菌科

蓋の側部又は中央部にて樹木に附著し莖を缺除す。蓋の背面は白色の絨毛にて被はれ其の周緣には雲狀の凹凸を現せり。襉は蓋の盤面の一側又は中央より射出し縱に深く裂け濕へるときは襉蓋共に伸びて扇を擴げたるが如き形をなせるも乾燥するときは襉悉く卷縮まり蓋亦腹部に向つて縮まり著しく形態を變ず。全體强靱にして乾濕に耐へ永存す。夏より秋にかけて「けやき」「くは」「さくら」等の枯れたる枝幹に夥しく發生す。

---

(4) Figs. 8—9. (和名) **くろきくらげ** (學名) **Exidia glandulosa** (Bull.) *Fr.*
(所屬) 擔子菌門—白木耳族—白木茸科

「きくらげ」の如く寒天質にして表面は黑褐色を呈し多少凹凸を有し上面に多くの小突起を散布す，胞子は腎臟形にして長徑 12—14μ 短徑 4—5μ あり。

---

(5) Figs. 10—14. (和名) **あみすぎたけ** (學名) **Polyporus arcularius** *Fr.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—多孔菌科

蓋は闇褐色,細かなる鱗被を有し中央部陷入し周緣は少しく下に卷けり。襉の裏面には管孔密布して網狀を呈す。莖は闇褐色にして細けれども强靱なり。莖も亦頗る硬し。莖の徑一寸許なる小菌なれども樹木の截株又は地上に横はれる枝幹の枯死せるものに多數群生す。梅雨季に最多し。食用に供せず。

---

(6) Figs. 15—16. (和名) **あみひらたけ** (學名) **Polyporus squamosus** *Fr.*
(所屬) 擔子菌門—帽菌族—多孔菌科

蓋は肉質，扇の如く扁平にして中央部少しく陷沒し徑三寸乃至八寸とす，莖は其の側方に附著し黑色なり管孔は初め細小なれども終に擴がりて多角形となる。胞子は白色楕圓形にして長徑約 16μ 短徑約 6μ あり，四五月頃及十月頃諸種の樹木の幹又は枝に生ず。食用とせず。

Tab.16. 第十六圖版



1—5, *Hypholoma appendiculatum* Bull. ⊙ いたちだけ
6—8, *Panaeolus retirugis* Fr. ⊙ ……………さいぎようがさ
9—12, *Helvela sulcata* Afz. ⊙ ……………………こくろあみがさたけ
13—15, *Amanita pantherina* De. × ……てんぐたけ(はいとりたけ)(へうたけ)
16—17, *Hypholoma fasciculare* Huds. △ ……………………やなぎたけ
18—20, *Paxillus atrotomentosus* (Batsch) Fr. ⊙ にはたけ

ILLUSTRATIONS OF JAPANESE FUNGI

EXPLANATION OF PLATE XVI

(1) Figs. 1—5. **Hypholoma appendiculatum** *Bull.* Jap. nam. *Itachi-také.*

Pileus ovate convex to expanded, and often margin elevated, brown, tawny; veil in fragments at edge of pileus, but soon disappearing; gills whitish, then brownish flesh-color; stem white smooth. Occurs in rainy season.

---

(2) Figs. 6—8. **Panaeolus retirugis** *Fr.* Jap. nam. *Saigyōgasa.*

Pileus globose, then hemispherical, subumbonate, whitish tan-color; gills greyish black; stem very long cylindrical stuffed. It is found mostly on fertilized soil from June to October.

---

(3) Figs. 9—12. **Helvela sulcata.** *Alz.* Jap. nam. *Ko-kuro-amigasa-také.*

Ascophore irregularly inflated, dark grey, irregularly lobed, lobes drooping and attached to the stem by the under surface; stem variously ribbed, pallid; solitary or gregarious. A small form of Helvella lacunosa.

---

(4) Figs. 13—15. **Amanita pantherina** *Dc.* Jap. nam. *Tengu-také.*

Pileus convex then almost plane, margin striate, flesh thin except at the disc, brownish; gills always white, free; stem bulbous, more or less silky or broken up into scales, stuffed then hollow; ring distant, usually oblique; volva adnate, very poisonous. Occurs in authumn.

---

(5) Figs. 16—17. **Hypholoma fasciculare** *Huds.* Jap. nam. *Yanagi-také.*

Pileus ovate, convex to expanded, yellow with tawny; stem yellow, hollow; gills brownish with a slight purple tinge; taste bitter, reputed poisonous. This fungus grows usually on decayed Cryptomeria logs.

---

(6) Figs. 18—20. **Paxillus atrotomentosus** (*Batsch.*) *Fr.* Jap. nam. *Niwa-také.*

Pileus convex, expanded, sometimes somewhat depressed, brownish or blackish, dry, tomentose on the surface; margin inrolled; flesh whitish, tough; gills adnate, often decurrent on the stem; stem solid, tough, elastic, covered with a dense black tomentum. It grows on decaying logs, from late summer to autumn.

(*S. Kawamura.*)

日本菌類圖譜

第十六圖版解說

(1) Figs. 1—5. (和名) **いたちたけ** (學名) **Hypholoma appendiculatum** *Bull.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—褶菌科

蓋は卵圓形又は圓錐形にして扁平なること少し。茶褐色にして蓋の周邊には蓋膜の遺物たる附屬物あり肉薄く且脆くして裂け易し。褶は最初莖に接すれども遂には莖より離れて初めより離生せるが如く見ゆ褶の色は初め白く後肉色となり更に紫褐色となる，莖は細く，纖維質にして中空なり。幼稚なるものは著しき蓋膜を有す。梅雨の季節に普通人家の垣根等に生ず。

---

(2) Figs. 6—8. (和名) **さいぎようがさ** (學名) **Panaéolus retirugis** *Fr.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—褶菌科

蓋は卵形又は圓錐形，闇灰色濕へる時は粘性あり。乾燥せるものは平滑にして光澤あり。褶は莖に直生し中央部廣し胞子は楕圓形黑褐色を呈す。莖は細長くして管狀をなす。幼時は蓋膜を具へ蓋の開展せし後は蓋の週緣に附著して存す。秋季藁積の腐朽しつゝある所に生ず。本菌と同屬なる Panaeolus papilionaceus. は發狂性中毒を惹起すと云ふ。

---

(3) Figs. 9—12. (和名) **こくろあみがさたけ** (學名) **Helvela sulcata** *Alz.*

(所屬) 子囊菌門—盤菌族—網笠茸科

頭部は黑褐色にして扁平鞍狀を成す。子囊は圓柱狀透明，楕圓形なる八個の胞子を藏す。側緣は線狀にして先端太く褐色を呈す全體「くろあみがさたけ」(Helvela lacunosa) に似て形常に小なるのみなれば之を「くろあみがさたけ」の種中に收むる學者あり。春秋兩季に林中地上に生ず。

---

(4) Figs. 13—15. (和名) **てんぐたけ** (はいとりたけ)(へうたけ)

(學名) **Amanita pantherina** *Dc.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—褶菌科

本邦に普通なる秋季の毒菌にして形概ね大きく蓋の充分開展したるものにありては徑六七寸に及ぶものあり。蓋の表面常に褐色にして其の上に白砂を散布したるが如き觀ある多數の疣を附著す。肉褶莖共に純白色。褶は莖に離生し，莖は上方に向つて細けれども上端は更に擴がりて莖に附著す。莖の下端は蕪菁根の如く膨大し莖の上部には膜狀の鍔を有す。毒素ムスカリンを含み其の性猛毒なり。

---

(5) Figs. 16—17. (和名) **やなぎたけ** (學名) **Hypholoma fasciculare** *Huds.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—褶菌科

蓋は徑一二寸突圓狀にして後に扁平となる，表面平滑にして光澤あり黃褐色，中央部は稍煉瓦色を帶ぶ。褶は莖に著生し頗る密なり，初め黃色にして後綠色となる莖は長さ二三寸徑二三分纖維質にして內部中空なり。胞子は褐色楕圓形長徑 4μ とす朽ちたる杉樹の根元に群生す。苦味あり有毒なることあり秋季に多し。

---

(6) Figs. 18—20. (和名) **にはたけ** (學名) **Paxillus atrotomentosus** (Batsch.) *Fr.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—褶菌科

蓋は黑褐色にして絨毛を被れり中央部は扁平或は少しく陷沒す。肉は白色，靱性あり褶は莖に直生又は垂生し屢下部に於て網狀を呈す。胞子は卵形淡黃色。莖は內部充實し靱性強く表面には黑色の絨毛を密生す。秋季樹木上に發生す本菌は褶菌科に屬すれども多孔菌科の諸菌に見る如く容易に腐敗することなければ乾燥して貯へ得べし且乾燥せし後も其の形態を著しく變ずることなし。

ILLUSTRATIONS OF JAPANESE FUNGI

PUBLISHED BY
THE FOREST EXPERIMENT STATION
OF
THE DEPARTMENT OF AGRICULTURE AND FORESTRY

日本菌類圖譜

第五集

農林省林業試驗場

大正十四年四月十日印刷
大正十四年四月十三日發行

農林省林業試驗場

印刷者 東京市神田區美土代町二丁目一番地 島連太郎

印刷所 東京市神田區美土代町二丁目一番地 三秀舍

發賣所 東京市神田區美土代町二丁目一番地 三秀舍 電話大手（二四八〇・五七二〇）

圖版	番號	誤	正
17	(1)	12	1–2
,,	(2)	Irregulary	Irregularly
,,	(3)	Tricholoma ustalae	Tricholoma ustale
,,	(4)	Phaeodon scablosum	Phaeodon scabrosum
18	(7)	Hyalin	Hyaline
19	(4)	tubed	tufed

INDEX

頁	誤	正
1	Kiidake	Kiidatake

ILLUSTRATIONS OF JAPANESE FUNGI

PUBLISHED BY

THE FOREST EXPERIMENT STATION

OF

THE DEPARTMENT OF AGRICULTURE AND FORESTRY

日本菌類圖譜

第五集

農林省林業試驗場

第五集　序言

本集は四圖版より成り之に二十七種の菌蕈類を掲載せり斯くして第一集より第五集を通じて食用菌五十四種有毒菌十四種及其の他八十五種合計百五十三種となれり之にて本邦產菌蕈類中の主要なるものを記述したるを以て本圖譜は之にて完結せむとす。

大正十四年二月

農林省林業試驗場



1–2, *Clavaria fragilis Holmsk.* ⊙ ············ ひらはりたけ

3–5, *Hygrophorus chlorophanus Fr.* ⊙ ············ つきみたけ

6–9, *Tricholoma ustale Fr.* × ············ かきしめぢ

10–12, *Phaeodon (Hydnum) scabrosum Fr.* ⊙ ······ けらふじ

13–16, *Boletus luteus L.* ○ ············ ぬめりいぐち

17–18, *Polyporus frondosus Fr.* ○ ············ まひたけ

19–21, *Collybia confluens Fr.* ○ ············ あまたけ

ILLUSTRATIONS OF JAPANESE FUNGI

EXPLANATION OF PLATE XVII.

(1) Figs. 12. **Clavaria fragilis** *Holmsk.* Jap. nam. *Hirahari-take.*

Entire plant crescent-shaped, yellowish in color, pointing upward, shallow furrowed longitudinally, occurs in woods during autumn.

---

(2) Figs. 3—5. **Hygrophorus chlorophanus** *Fr.* Jap. nam. *Tsukimi-take*

Pileus egg-yellow, depressed, margin irregulary, very much viscid, fragil; gills wide; stems same color as pileus, hollow; occurs in woods at the beginning and the middle of autumn.

---

(3) Figs. 6—9. **Tricholoma ustale** *Fr.* Jap. nam. *Kaki-shimeji.*

A poisonous species, occurs during autumn; pileus reddish-brown, margin somewhat incurved; gills white at first and then yellowish brown.

---

(4) Figs. 10—12. **Phaeodon** (Hydnum) **scablosum** *Fr.* Jap. nam. *Kerōji.*

Pileus plain or somewhat depressed in the center, covering with dark brown scales; teeth brown; stems brown above and indigo below, stuff, solid; found in fallen leaves during autumn; known as poisonous.

---

(5) Figs. 13—16. **Boletus luteus L.** Jap. nam. *Numeri-iguchi.*

Pileus hemi-spherical, reddish-brown in color, very viscid when moist; The tube surface is plain, yellow in color, tubes small with nearly rounded mouths; rings present; spores long elliptical, yellowish green.

---

(6) Figs. 17—18. **Polyporus frondosus** *Fr.* Jap. nam. *Mai-take.*

A very large species; pileus grayish black or light brown in color, imbricate; margin irregular; tube surface pure white; flesh fragile; found in broad leaved forest at autumn.

---

(7) Figs. 19—21. **Collybia confluens** *Hr.* Jap. nam. *Amatake.*

Pileus grayish-brown, 3-5 cm. in diameter; gills sinuate, white, more or less crowded; stems hollow, with beared-like mycelium rooting from lower parts; grows in woods of Quercus glandulifera during autumn; spores hayalin, eatable.

日 本 菌 類 圖 譜

第 十 七 圖 版 解 説

(**1**) Figs. 1—2. (和名) **ひらはりたけ** (學名) **Clavaria fragilis** *Holmsk.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—箒茸科

形長き棍棒狀をなし數個叢生す秋季多く雜木林に發生する黃色の菌蕈にして先端及基部は幅狹く中央部は稍廣し概ね縱に淺き溝を有す胞子は球形にて微黃色を呈す。

(**2**) Figs. 3—5. (和名) **つきみだけ** (學名) **Hygrophorus chlorophanus** *Fr.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—襴菌科

蓋は濃黃色を呈し緣邊は上方に反轉す襴は莖に着生し幅稍廣く黃色なり，莖は上下共に太さ同一にして其の質頗る脆く襴と同色にして內腔なり，頗る水質に富む. 秋季雜木林中に發生す。

(**3**) Figs. 6—9 (和名) **かきしめぢ** (學名) **Tricholoma ustalae** *Fr.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—襴菌科

秋季多く落葉樹林中に發生する有毒菌にして蓋の表面は赤褐色を呈し緣邊は稍內方に卷く襴は莖に灣生し初め白色なるも後褐色の汚染を生ず，莖の表面は褐色にして上下共に同大內部は概ね充實す肉質なれども頗る固し，胞子は球形にして無色なり。

(**4**) Figs. 10—12. (和名) **けらふぢ** (學名) **Phaeodon** (Hydnum) **scabrosum** *Fr.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—皮茸科

蓋は扁平又は稍漏斗狀にして全面黑褐色の鱗片を以て覆はる裏面の棘狀をなせる子實層托は褐色を呈す莖は褐色なるも下部は藍色を呈し且つ漸次其の太さを減ず。秋季林中にくろかはと共に發生すること多し有毒なりと謂ひ傳ふ

(**5**) Figs. 13—16. (和名) **ぬめりいぐち** (學名) **Boletus luteus** *L.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—多孔菌科

蓋は初め半球狀をなし赤褐色を呈し濕潤なるときは著しく粘性を帶ぶ裏面は黃色にして窩房は小さく略圓形をなし肉は微黃色を呈す，柄は鍔を有す，胞子は長楕圓形にして黃綠色を呈す。秋季發生す。

(**6**) Figs 17—18. (和名) **まひたけ** (學名) **Polyporus frondosus** *Fr.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—多孔菌科

秋季濶葉樹の切株又は枯幹等に發生する大形の食用菌にして蓋は多數相重り生じ其の上面は淡黑色若は微褐色を呈し緣邊は波狀を呈す裏面は純白色をなす柄は扁平又は圓筒に近き形をなして一定せず肉質脆くして裂け易すし胞子は無色透明にして平滑なり。

(**7**) Figs. 19—21. (和名) **あまたけ** (學名) **Collybia confluens** *Fr.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—襴菌科

蓋は灰褐色にして直徑約 3—5 cm. あり襴は白色を呈し莖に着生し著しく密生す柄の中央部より下方には細根狀の鬚を發生す內部は空虛なり秋季なら林中に發生するものにして食用となすことを得胞子は無色にして楕圓形をなす



1—2, *Boletus edulis* Bull. ○ .... あかやまどり

3—5, *Armillaria caligata* Viv. ○ .... まつだけもどき

6—8, *Entoloma rhodopolium* Fr. × .... くさうらべにたけ

9—12, *Tricholoma japonica* Kawamura. ○... しろしめぢ

13. *Clavaria vermicularis* Scop. ⊙ .... しろそうめんたけ

14—16, *Leotia lubrica* Pers. ⊙ .... づきんたけ

17—19, *Pleurotus japonica* Kawamura. × .... つきよたけ

ILLUSTRATIONS OF JAPANESE FUNGI

EXPLANATION OF PLATE XVIII.

(1) Figs. 1—2. **Boletus edulis** *Bull.* Jap. nam. *Akayamadori.*

A very large species; pileus convex then neary plain, reddish brown, irregularly cracked; flesh very sick, somewhat yellow in color; stems large and solid, reticulatious on the surface; tubes at first white then dull yellow in color; spores greenish-olive, fusiform elongate.

---

(2) Figs. 3—5. **Armillaria caligata** *Viv.* Jap. nam. *Matsutakemodoki.*

Entire plant resembles to Armillaria edodes in form and color; pileus covered with darkish-brown scales, flesh white; stems brownish, firm and usually solid; edible.

---

(3) Figs. 6—8. **Entoloma rhodopolium** *Fr.* Jap. nam. *Kusa-urabeni-take.*

Pileus gibbous, at length plain or depressed, grayish brown; gills broad somewhat sinuate, slightly distant; stems white often reddish with spores, hollow; spores polyangular, reddish; found in mixed woods during autumn; odour strong, poisonous.

---

(4) Figs. 9—12. **Tricholoma japonica** *Kawamura.* Jap. nam. *Shiro-shimeji.*

Pileus hemispherical then convex, flesh thick; gills sinuate crowded; stems almost equal or attenuate upwards often bulbous; spores colorless spherical; edible, often growing in circles.

---

(5) Figs. 13. **Clavaria vermicularis** *Scop.* Jap. nam. *Shiro-somen-take*

Found on lawns or in paths in woods in the raining season; cylindrical, apex pointed, densely tufted, brittle.

---

(6) Figs. 14-16. **Leotia lubrica** *Pers.* Jap. nam. *Zukin-take*

Gregarious and somewhat gelatinous; pileus irregularly hemispherical, wavy, yellowish olive-green in color; stems cylindrical nearly equal, pulpy, whithin hollow; asci cylindrical, containing 8 elliptical spores; paraphysis slender, hyaline.

---

(7) Figs. 17—19. **Pleurotus japonicus** *Kawamura.* Jap. nam. *Tsukiyo-take.*

A very poisonous species which growing on the rotten wood of Fagus japonica Maxim. at the beginning of autumn; pileus kidney-shaped, covered with small scales, yellowish brown in color; gills white; stems excentric and short; spores one cell, elliptical, hyalin; luminous at night.

日　本　菌　類　圖　譜

第十八圖版解說

(1) Figs. 1—2.（和名）**あかやまどり**（學名）**Boletus edulis** *Bull.*

（所屬）擔子菌門—帽菌族—多孔菌科

「あはたけ」屬中最も巨大なる菌蕈なり蓋の表面は赤褐色を呈し不規則なる龜裂あり肉は甚だ厚く微黃色を呈す裏面は黃色にして窩房は極小なり莖は太く下部膨大するを常とす且つ其の質堅く其の上部には表面に網狀の模様を現はせり七，八月の候に發生し食用とす。

---

(2) Figs. 3—5.（和名）**まつたけもどき**（**をばさん**）（學名）**Armillaria caligata** Viv.

（所屬）擔子菌門—帽菌族—襉菌科

「まつだけに」酷似せるが故に「まつたけもどき」。「をばさん」。「をばしかう」等の名あり概ね形小にして「まつだけ」の如き香氣なし蓋の表面は茶褐色の纖維狀表皮を以て覆はれ肉は白色なり莖も赤褐色を帶び質堅し胞子は無色球形なり食用とす。

---

(3) Figs. 6—8.（和名）**くさうらべにたけ**（學名）**Entoloma rhodopolium** *Fr.*

（所屬）擔子菌門—帽菌族—襉菌科

蓋の表面は灰褐色を呈し緣邊には僅に條線あり襉は淡紅色を呈し幅廣く緣は少しく波狀をなせることあり莖は白色にして中空なり質脆し胞子は多角形にして淡紅色なり秋季發生す稍硝酸に似たる一種の惡臭ありて有毒なり。

---

(4) Figs. 9—12.（和名）**しろしめぢ**（學名）**Tricholoma Japonica** *Kawamura.*

（所屬）擔子菌門—帽菌族—襉菌科

蓋は白色なるも中央部は微に褐色を呈す襉は莖に灣生し微黃色にして幅狹く密生す莖は質堅く白色にして充實す胞子は無色にして丸し秋季雜木林中に多數相連りて發生する故に一つに「ぬのびき」の名あり，食用とす。

---

(5) Figs. 13.（和名）**しろそうめんたけ**（學名）**Clavaria vermicularis** *Scop.*

（所屬）擔子菌門—帽菌族—箒茸科

六，七月頃芝生路傍等の日陰に發生す總體純白にして線狀をなし分岐せず其の質脆くして多數發生するときは美觀を呈す。

---

(6) Figs. 14—16.（和名）**づきんたけ**（學名）**Leotia lubrica** *Pers.*

（所屬）子囊菌門—盤菌族—網笠茸科

蓋は小なる頭巾狀をなし帶綠暗黃色なり莖は蓋に比して細長にして黃色なり子囊は長棍棒狀をなし內部には楕圓形をなせる八個の胞子を有し細き側絲を有す夏季及秋季林中地上に叢生す。

---

(7) Figs. 17—19.（和名）**つきよたけ**（學名）**Pleurotus japonicus** *Kawamura.*

（所屬）擔子菌門—帽菌族—襉菌科

本菌は秋季山毛欅の枯木に多數發生する猛毒を有するものにして蓋は半月狀又は腎臟形をなし表面滑にして黃褐色をなし老成せるものは紫褐色を呈す。肉は柔くして裂け易すし柄は蓋の一側に生じ短かし襉は白色にして柄の部に到り輪狀の隆起或は溝にて遮ぎらる胞子は白色にて楕圓形なり夜間發光するを以て此の名あり，「ひらたけ」と誤食し中毒するもの多し。



1–4, *Lactarius piperatus* (Scop.) Schröt. ✕…… つちかぶり

5–6, *Clavaria rosea* Fr. ⊙…… べにそうめんたけ

7–8, *Helvella crispa* Fr. ⊙…… のぼりりよう

9–11, *Clavaria purpurea* Mull. ⊙…… むらさきなぎなただけ

12–14, *Tricholoma fumidum* Kawamura ○…… 志もふりしめぢ

15–17, *Cortinarius largus* Fr. ⊙…… ふぢいろたけ

ILLUSTRATIONS OF JAPANESE FUNGI

EXPLANATIONS OF PLATE XIX.

(1) Figs. 1—4. **Lactarius piperatus.** (Scop.) *Schröt.* Jap. nam. *Tsuchikaburi.*

Pileus white tinged with yellow when old, infundibuli form; gills crowded, narrow, white, decurrent to the stem, excreating white and acrid milky juice where wounded; stems very short and thick, solid.

---

(2) Figs. 5—6. **Clavaria rosea** *Fr.* Jap. nam. *Benisomen-take.*

A pretty species, crimson-red, small tuffs, simple, stuffed; grows amongst grase or moss; spores coloress, globose.

---

(3) Figs. 7—8. **Helvella crispa** *Fr.* Jap. nam. *Nobori-ryo.*

Pileus saddle-shaped, yellowish white, attached to the stems by the under surface; stems whitish, deeply furrowed; asci cylindrical, containing 8 elliptical spores; occurs in woods during summer and autumn.

---

(4) Figs. 9—11. **Clavaria purprea** *Müll.* Jap. nam. *Murasaki-naginata-take.*

Entire plant purple and tubed or simple, hollow, and compressed,fragil, grows grass during autumn.

---

(5) Figs. 12—14. **Tricholoma fumidum** *Kawamura.* Jap. nam. *Shimofuri-shimeji.*

Flesh thick, firm, white with a faint yellowish tinge, convex, umbonate then nearly expanded, obtues or sometimes more or less gilbous, viscid when moist, sooty or with a purple tinge; gills rounded behind often almost free, crowded; stems solid, fibrous, sometimes equal, edible; occurs late autumn.

---

(6) Figs. 15—17. **Cortinarius largus** *Fr.* Jap. nam. *Fujiiro-take.*

Pileus covex then flattened, very obtues, violet, tawny when mature, but always violet at the margin; stems solid, bulbous at the base, white tinged violet; flesh of stem and pileus entirely fibrillose; found in woods during autumn.

日 本 菌 類 圖 譜

第 十 九 圖 版 解 說

(1) Figs. 1—4. (和名) **つちかぶり** (學名) **Lactarius piperatus** (*Scop.*) *Schröt.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—襉菌科

蓋は白色又は微黄色を呈して杯狀をなす襉は幅狹くして莖に垂生し密生す全體質脆し傷を與ふれば乳汁を浸出す莖は蓋と同色にして短し故に地上に出でずして蓋開展するも土を被ること多し「つちかぶり」の名依て起る，胞子は無色球形夏季及秋季廣く各地林野路傍等に發生す辛味强烈有毒なれども永く水に浸したる後之を喰ふ者あり。

---

(2) Figs. 5—6. (和名) **べにそうめんたけ** (學名) **Clavaria rosea** *Fr.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—箒茸科

棒狀鮮紅色にして先端は鋭尖ならず數個叢生するを常とす內部は充實す胞子は無色球形をなす秋季芝草蘚類中に發生する可憐なる小菌蕈なり。

---

(3) Figs. 7—8. (和名) **のぼりりよう** (學名) **Helvella crispa** *Fr.*

(所屬) 子囊菌門—盤菌族—網笠茸科

蓋は微黄色を呈し莖には數個の深き縦溝を有す子囊は棍棒狀をなし內部には八個の楕圓形，單細胞の子囊胞子を有す絲狀體を有す，秋季落葉上に發生す。

---

(4) Figs. 9—11. (和名) **むらさきなぎなただけ** (學名) **Clavaria purpurea** *Müll.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—箒茸科

紫色を呈し先端は鋭尖なり內部は空虛にして「むらさきははきたけ」(Clararia amethystima) の如く分岐せず胞子は無色の長楕圓形なり秋季數本又は十數本一團となりて叢生す。

---

(5) Figs. 12—14. (和名) **しもふりしめぢ** (學名) **Tricholoma fumidum** *Kawamura.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—襉菌科

蓋の中央部は隆起し帶黄黑色，襉は幅廣く淡黄色にして莖に灣生す，莖は白色上下同大にして內部は空虛なり胞子は球形，無色，秋季遲く發生するを以て此の名あり食用として可良なり。

---

(6) Figs. 15—17. (和名) **ふぢいろたけ** (學名) **Cortinarius largus** *Fr.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—襉菌科

蓋は初め鮮美なる藤紫色を呈し後黄褐色となるも周邊は紫色を變せず襉は黄色にして莖に着生す帶紫色にして鍔のある可き位置に襉と同色の細き條線を有し下部は膨大し質堅くして充實す。胞子は褐色にして楕圓形なり秋季雜木林中に發生す。

Tab. 20. 第二十圖版



1–3, *Guepinia spathularia* Fr. ……………… つのまたたけ
4–5, *Merulius lacrymans* Fr. ……………… なみだたけ
6–8, *Poria vaporaria* Pers. ……………… わたぐされたけ
9–10, *Polystictus hirsutus* Fr. ……………… あらげかはらたけ
11–12, *Polystictus versicolor* Fr. var. *nigricans* Lasch. ……………… くろくもたけ
13–14, *Lenzites betulina* Fr. ……………… かいがらたけ(びろうどたけ)
15–17, *Polyporus cinnabarius* (Jacq.) Fr. ……………… 志ゆたけ

ILLUSTRATIONS OF JAPANESE FUNGI

EXPLANATION OF PLATE XX.

(1) Figs. 1—3. **Guepinia spathularia** *Fr.* Jap. nam. *Tsunomata-take.*
Yellow, gelatinous when moist, cartilaginous, especially when dry; quite common on Cryptmeria, pine or beech logs, during summer.

---

(2) Figs. 4—5. **Merulius lacrymans** *Fr.* Jap. nam. *Namida-take.*
The "Weeping merulius" or "house fungus." It is very destructive to buildings, especially on its favorable conditions—poor ventilation, much moisture and insufficient of rays—its destroying function becomes more powerfull. Resupinate, fleshy, spnozy, moist, tender; at first, cottony and white, when irregular fold appear it is of a fine yellow, orange or reddish-brown, exuding drops of water when perfect.

---

(3) Figs. 6—8, **Poria vaporaria** *Pers.* Jap. nam. *Watagusare-take.*
Broadly effused, pores very variable, large, angular often more or less oblique, whitish becoming pale ochracous when dry; most common destroying fungus of the telegraph poles in Japan.

---

(4) Figs. 9—10. **Polystictus hirsutus** *Fr.* Jap. nam. *Arage-kawara-take.*
Pileus corky, semicircular or reniform, convex-plain, covered with dense hair-like pile, whitish, concentrical zoned with rusty color; pores obtuse angular, white then brownish.

---

(5) Figs. 11—12. **Polystictus vercicolor** *Fr.* **var. nigricans** *Lasch.* *Kurokumo-take.*
Coriaceous, flat, semicircular, subimbricated; above surface dark gray in color, densely velvety; concentricaly zoned, margin wavy; pores white then cream-color.

---

(6) Figs. 13—14. **Lenzites betulina** *Fr.* Jap. nam. *Kaigara-take*
Pileus reniform, densely covered with tomentose hair, concentrically zoned, cork or leathery, margin incurved; gills white, radiated from the attaching portion to the host; sessil, grows on wood birch or oaks.

---

(7) Figs. 15—17. **Polystictus cinnabarius** (Jacq.) *Fr.* Jap. nam. *Shiu-take.*
Entire plant hemi-circular, cinnabar-colored, corky, shelving, sessil; opening of pores minute; flesh yellowish-red; very common on dead logs and branches of cherry or oaks.

日本菌類圖譜

第二十圖版解說

(1) Figs. 1—3. (和名) **つのまたたけ** (學名) **Guepinia spathularia** *Fr.*

(所屬) 擔子菌門—耳茸族—耳茸科

子實體は小さく其の先端は僅に分る乾燥するときは著しく縮小するも濕氣を得れば再び元形に復す彈性に富み黃色又は橙黃色を呈す五，六月頃より八，九月頃に至る間主にすぎ，まつ，ぶな等の枯木に列狀をなして群生す。

---

(2) Figs. 4—5. (和名) **なみだたけ** (學名) **Merulius lacrymans** *Fr.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—多孔菌科

木造建築物の著明なる腐朽菌にして通風不良なる家屋の床下には其の發生及繁殖特に迅速なり本邦は一般の氣候本菌の繁殖に適し從つて洋風木造家屋の受くる菌害は甚だ猛烈なり多孔菌に屬し其質軟くして麴の如く通常被害木材の下面に平たく生じ其の面は「カステーラ」の如く粗製にして黃褐色を呈す胞子は黃褐色の橢圓形をなす。

---

(3) Figs. 6—8. (和名) **わたぐされたけ** (學名) **Poria vaporaria** *Pers.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—多孔菌科

子實體は初め白色なるも後黃色又は汚黃色に化す本菌は本邦に於ては主として電柱の害菌として其の被害大なり被害木材の內部には各所に綿の小片を撒布せるが如き菌絲の小塊を見る。

---

(4) Figs. 9—10. (和名) **あらげかはらたけ** (學名) **Polystictus hirsutus** *Fr.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—多孔菌科

半圓形又は腎臟形をなし表面は絨毛を以て被はれ天鵞絨狀の觸感ありて黴褐色の同心環紋を現せり「コルク」質にして內は白色なり窩房は初め白く後淡褐色を呈し小なる多角形をなす莖を有せず胞子は無色五，六月頃なら，くり等の枯木に發生す。

---

(5) Figs. 11—12. (和名) **くろくもたけ** (學名) **Polystictus versicolor** *Fr.* **var. nigricans** *Lasch,*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—多孔菌科

枯死せるなら，くり等の枝及幹に覆瓦狀に發生す蓋は扇狀をなし表面は密毛を以て覆はる光澤ある黑色の同心環紋を有す，窩房は小にして白色又は淡黃色を呈す

---

(6) Figs. 13—14. (和名) **かひがらたけ** (學名) **Lenzites betulina** *Fr.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—襉菌科

「コルク」質又は革質貝殼狀をなし其の基部を中心として灰黑色又は灰青色の同心環紋を有し且全面柔かなる絨毛を以て被はるゝこと「あらげかはらたけ」に似たるも裏面に襉を有するにより直に區別す，緣邊は內方に卷く襉は白色にて基却部より放射狀に走る秋季かんば，なら，くぬぎ等の枯木に覆瓦狀に發生す。

---

(7) Figs. 15—17. (學名) **しゆたけ** (和名) **Polystictus cinnabrius** (*Jacqu.*) *Fr.*

(所屬) 擔子菌門—帽菌族—多孔菌科

子實體は半圓形をなし表面は朱色を呈し同心環紋は不明瞭なり裏面も朱色にして，窩房は微細なり淡紅色にして「コルク」質なりさくら，なら，くり等の枯木に最初皮目の部位より外に出て子實體を結ぶ。

日本菌類圖譜目錄

INDEX OF THE ILLUSTRATIONS OF JAPANESE FUNGI

農林省林業試驗場

MEGURO FOREST EXPERIMENT STATION
DEPARTMENT OF AGRICULTURE AND FORESTRY

和名目錄（いろは順）

和名	學名	集	版	圖
かいがらたけ	Lenzites betulina Fr.	5	20	13–14
かきしめぢ	Tricholoma ustale Fr.	5	17	6– 9
かればたけ	Marasmius erythropus Fr.	2	5	30–32
かのした	Hydnum repandum Linn.	2	7	8–10
からかさだけ	Lepiota procera Scop.	5	12	1– 4
かにのつめ	Laternea biculumata Lloyd.	3	12	8– 9
かうたけ	Hydnum (Phaeodon) aspratus Berk.	4	13	4– 5
よへいじ	Russula integra (L.) Fr. var.	2	8	3– 5
たまごたけ	Amanita caesarea Scop.	2	7	15–17
たまごてんぐたけ	Amanita phaloides Fr.	2	7	24–25
たんぽたけ	Cordiceps capitata. Fr.	4	13	11–12
つまみたけ	Lysurus Moku-in (Cibot.) Fr.	2	6	12–14
つるたけ	Amanitopsis vaginata Roze.	1	3	14–17
つゑたけ	Collybia radicata Rehl.	1	3	1– 4
つちぐり	Geaster hygrometricus Pers.	1	2	6– 9
つのまたたけ	Guepinia spathularia Fr.	5	20	1– 3
つちかぶり	Lactarius piperatus (Scop.) Schröt.	5	19	1– 4
つきみだけ	Hygrophorus chrolophanus Fr.	5	17	3– 5
づきんけ	Leotia lubrica Pers,	5	18	14–16
つきよたけ	Pleurotus japonicus Kawamura.	5	18	17–19
なみだたけ	Merulius lacrymans Sacc.	5	20	4– 5
ならたけ	Armillaria mellea (Vohl.) Quel.	2	6	24–25
むらさきはうきたけ	Clavaria amethystina Bull.	3	9	20
むらさきしめぢ	Tricholoma personatum Fr.	2	6	7– 8
むらさきはつだけ	Russula purpurea Fr.	1	1	10–13
むらさきなぎなただけ	Clavaria purprea Mull.	5	19	9–11
うすたけ	Cantharellus floccosus Schw.	1	3	23–25
うちはたけ	Polystictus flabelliformis Klotzch.	1	3	26–29
のぼりりよう	Helvella crispa Fr.	5	19	7– 8
のうたけ	Clavatia craniformis Schw.	3	11	6– 7
くさうらべにたけ	Entoloma rhodopolium Fr.	5	18	6– 8
くろきくらげ	Exidia glandulosa (Bull) Fr.	4	15	8– 9
くちべにたけ	Calostoma japonicus P. Henn.	3	11	1– 2
くろかわ(うしびたい)(ろうじ)	Polyporus leucomelus (Pers.) Fr.	2	7	29–30
くろあみがさたけ	Helvella lacunosa Afz.	2	5	26–29

和名	學名	集	版	圖
あみかさたけ	Morchella esculenta Pers.	1	4	5– 6
あみすぎたけ	Polyporus arcularius Fr.	4	15	10–14
あみひらたけ(ちやうちはたけ)	Polyporus squamosus Fr.	4	15	15–16
あまたけ	Collybia confluens Fr.	5	17	19–21
あふぎたけ	Comphidus roseus Fr.	1	4	1– 4
あかぬまべにたけ	Hygrophorus miniatus Fr	1	1	27–29
あかはいとりたけ	Amanita muscaria L.	1	2	14–18
あかもみたけ(あかちゝたけ)	Lactarius deliciosus (L) Schröt.	3	10	19–22
あかやまどり	Boletus edulis Bull.	5	18	1– 2
あかやまたけ	Hygrophorus conicus Fr.	1	4	18–19
あかはつ	Lactarius Akahatsu Tanaka.	2	7	11–14
あけぼのたけ	Hygrophorus calyptraeformis Berk.	2	5	19–21
あせたけ（どくすぎたけ）	Inocybe rimosa Bull.	2	7	1– 4
あぶらしめぢ	Cortinarius elatior Fr.	2	7	18–20
あしぼそあみかさたけ	Morchella deliciosa Fr.	4	14	14–15
あしぶとあみかさたけ	Morchella crassipes Pers.	4	14	16
あんずたけ	Cantharellus cibarius Fr.	1	3	8–11
さまつたけ	Tricholoma colossum Fr.	4	15	1– 2
さまつもどき	Tricholoma rutilans Schaeff.	2	8	6– 7
さいぎようがさ	Panaeolus retirugis Fr.	4	16	6– 8
さんこたけ	Pseudocolus japonicus Penzig.	3	10	7–10
さくらしめぢ	Tricholoma Russula Schaeff.	2	6	9–11
ささくれひとよたけ	Coprinus comatus Fr.	1	3	18–22
きつねのはながさ	Lepiota licmophora B. et C.	1	4	20–23
きつねのたいまつ	Ithyphallus rugulosus Fisch.	2	6	26–27
きそうめんたけ	Clavaria inaequalis Mull.	1	3	12–13
きんちやわんたけ	Peziza splendens Quel.	2	5	1– 7
きぬがさたけ	Dictiophora phalloidea Desv.	2	6	15–17
きしめぢ	Tricholoma equestre Linn.	2	7	26–28
きくらげ	Auricularia (Hirneola) auricula jundae L.	4	13	6– 7
きひだたけ	Clitocybe pelletieri Lev.	3	11	3– 4
きつねのちやぶくろ	Lycoperdon gemmatum Batsh.	3	9	17–19
みみぶさたけ	Midotis macrotis Berk.	2	5	16–18
みどりたけ	Hygrophorus Wynniae	1	1	30–32
しろしめぢ	Tricholoma Japonica Kawamura.	5	18	9–12
しろそうめんたけ	Clavaria vermicularis Scop.	5	18	13

和名	學名	集	版	圖
しろのこべにたけ	Russula fragilis Fr. var. nivea Pers.	1	1	4–6
しろつるたけ	Amanitopsis vaginata (Bull.) Roze. var. alba Fr.	2	6	1–3
しろかればたけ	Marasmius alliatus Schaeff.	2	5	22–25
しめぢ	Tricholoma Shimeji Kawamura.	4	13	8–10
しもふりしめぢ	Tricholoma fumidum Kawamura.	5	19	12–14
しゆたけ	Polystictus cinnabarius Schw.	5	20	15–17
しようろ	Rhizopogon rubescens Tul.	5	9	4–6
しよううんじ	Pholiota caperata Pers.	3	9	11–13
しひたけ	Cortinellus Shiitake (Schröt) P. Henn.	3	10	1–4
ししたけ	Hydnum (Phaedon) imbricatum L.	4	14	3–4
ひいろがさ	Hygrophorus puniceus Fr.	3	9	14–16
ひらたけ	Pleurotus ostreatus Jacq.	2	8	1–2
ひめつちぐり	Geaster Schmidelii Vitted.	1	2	29–31
ひとくちたけ	Polyporus volvatus Peck.	1	2	10–13
ひらはりたけ	Clavaria fragilis Holmsk.	5	17	1–2
せみたけ	Cordyceps sobolifera (Hill) Berk.	3	12	11–12
すつぽんたけ	Ithyphallus impudicus Fr.	1	1	20–23
すぎたけ	Pholiota squarrosa Mull.	2	8	13–14
すゑひろたけ	Schizophyllum commune Fr.	4	15	4–7

INDEX OF LATIN NAMES

Latin nam.	Jap. nam.	Gllos.	Pl.	Figs.
Collybia radicata Rehl.	Tsuetake	1	3	1–4
Collybia velutipes (Surt) Sacc.	Enokitake	3	10	5–6
Collybia confluens Fr.	Amatake	5	17	19–21
Cortinarius largus Fr.	Fijiirotake	5	19	15–17
Cortinarius purpurascens Fr.	Fusentake	1	7	7–10
Cortinarius elatior Fr.	Abrashimeji	2	7	18–20
Cortinerius edodes P. Henn.	Matsudake	2	8	11–12
Cortinellus Shiitake (Scröt.) P. Henn.	Shiitake	3	10	1–4
Cordiceps capitata Fr.	Tanpotake	4	13	11–12
Cordyceps sobolifera (Hill.) Berk.	Semitake	3	12	11–12
Coprinus comatus Fr.	Sasakurehîtoyotake	1	3	18–22
Cyathus vernicosus D.C.	Chadaigoke	1	4	31
Dictiophora phalloidea Desv.	Kinugasatake	2	6	15–17
Entoloma sinuata Fr.	Ipponshimeji	2	6	18–20
Entoloma rhodopolium Fr.	Kusaurabenitake	5	18	6–8
Exidia glandulosa (Bull.) Fr.	Kurokikurage	4	15	8–9
Fomes japonicus Fr.	Mannentake	2	8	17–19
Geaster schmidelii Vittad.	Himetsuchiguri	1	2	29–31
Geaster trilex Jungh.	Erimakitsuchiguri	1	2	4–5
Geaster rufescens Pers.	Yaburetsuchiguri	1	2	32–33
Geaster hygrometricus Fers.	Tsuchiguri	1	2	6–9
Gomphidius viscidus (L.) Fr.	Kugitake	2	5	13–15
Gomphidius roseus Fr.	Ogitake	1	4	1–4
Guepinia spathularia Fr.	Tsunomatatake	5	20	1–3
Helvella sulcata Afz.	Kokuroamigasatake	4	16	9–12
Helvella lacunosa Afz.	Kuroamigasatake	(1) 2	(14) 5	(11–14) 26–29
Helvella crispa Fr.	Noboriryo	5	19	7–8
Hydnum repandum Linn.	Kanoshita	2	7	8–10
Hydnum (Phaeodon) aspratus Berk.	Kōtake	4	13	4–5
Hydnum erinaceus Bull.	Yamabushitake	4	13	3
Hydnum auriscalpium L.	Matsukasadake	3	12	13–15
Hydnum (Phaeodon) imbricatum L.	Shishitake	4	14	3–4
Hygrophorus puniceus Fr.	Hiirogasa	3	9	14–16
Hygrophorus Wynniae P. et. Rr.	Midoritake	1	1	30–32
Hygrophorus colytraeformis Berk.	Akebonotake	2	5	19–21
Hygrophorus conicus Fr.	Akayamatake	1	4	18–19
Hygrophorus miniatus Fr.	Akanumabenitake	1	1	27–29
Hygrophorus chlorophanus Fr.	Tsukimidake	5	17	3–5

Latin nam.	Jap. nam.	Gllos.	Pl.	Figs.
Hypholoma appendiculatum Bull.	Itachidake	4	16	1–5
Hypholoma sublateritium Schaeff.	Kuritake	1	1	24–26
Hypholoma fasciculare Hud.	Yanagitake	4	16	16–17
Inocybe rimosa Bull.	Asetake	2	7	1–4
Isaria arachnophila Ditm.	Kumotake	1	4	15–17
Ithyphallus impudicus Fr.	Suppontake	1	1	20–23
Ithyphallus rugulosus Fish.	Kitsunenotaimatsu	2	6	26–27
Lactarius Hatsudake Tanaka	Hatsutake	2	7	5–7
Lactarius volenus Fr.	Chitake	2	6	21–23
Lactarius piperatus (Scop.) Schröt.	Tsuchikaburi	5	19	1–4
Lactarius deliciosus (L.) Schröt.	Akamomitake	3	10	19–22
Lactarius Akahatsu Tanaka	Akahatsu	2	7	11–14
Laternea biculumnata Lloyd.	Kaninotsume	3	12	8–9
Lashiophaera Tenzlii Reich.	Onifusube	3	11	5
Lepiota licmophora B. et. C.	Kitsunenohanagasa	1	4	20–23
Lepiota procera Scop.	Karakasatake	3	12	1–4
Lepiota acutesquamosa Wein	Onitake	3	11	8–10
Leotia lubrica Pers.	Dukintake	5	18	14–16
Lenzites beturina Fr.	Kaigaratake	5	20	13–14
Lentinus lepideus Fr.	Matsuoji	3	10	13–15
Lentinus tigrinus Fr.	Kegawatake	3	10	16–18
Lycoperdon gemmatum Batsh.	Kitsunenochabukuro	3	9	17–19
Lycoperdon floccosum Lloyd.	Okitsunenochabukuro	4	15	3
Lysurus Mokusin (Cibat.) Fr.	Tsumamitake	2	6	12–14
Marasmius albiatus Schaeff.	Shirokarebatake	2	5	22–25
Marasmius erythrophus Fr.	Karebatake	2	5	30–32
Marasmius siccus Schw.	Hariganeochibatake	1	4	24–28
Merulius lacrymans Sacc.	Namidatake	5	20	4–5
Midotis macrotis Berk.	Mimibusatake	2	5	16–18
Morchella conica Pers.	Togariamigasatake	1	4	29–30
Morchella esculenta Pers.	Amikasatake	1	4	5–6
Morchella deliciosa Fr.	Ashibosoamigasatake	4	14	14–15
Morchella cerassipes Pers.	Ashibutoamigasatake	4	14	16
Nyctaris asterophora Fr.	Yaguratake	3	9	7–10
Paxillus atrotomentosus (Batsh.) Fr.	Niwatake	4	16	18–20
Pannaeolus retirugis Fr.	Saigyogasa	4	16	6–8
Peziza splendens Quel.	Kinchawantake	2	5	1–7
Peziza rapulum Bull.	Hasnohatake	2	5	8–12

Latin nam.	Jap. nam.	Gllos.	Pl.	Figs.
Peziza vesciculosa Bull.	Ochawantake	2	5	33–35
Pholiota flammulans. Fr.	Hanakasatake	3	10	11–12
Pholiota adiposa Fr.	Numerisugitake	2	8	15–16
Pholiota caperata Fr.	Shounji	3	9	11–13
Pholiota squarrosa Mull.	Sugitake	2	8	13–14
Phaeodon (Hydnum) scabrosum Fr.	Keroji	5	17	10–12
Poria vaporaria Sacc.	Watagusaretake	5	20	6–8
Polyporus frondosus Fr.	Maitake	5	17	17–18
Polyporus leucomelus (Pers.) Fr.	Kurokawa	2	7	29–30
Polyporus sulphureus Fr.	Mastake	4	13	1–2
Polyporus arcularius Fr.	Amisugitake	4	15	10–14
Polyporus squamosus Fr.	Amihiratake	4	15	15–16
Polyporus volvatus Peck.	Hitokuchitake	1	2	10–13
Polystictus cinnabarius (Jacq.) Fr.	Shiutake	5	20	15–17
Polystictus hirsutus Fr.	Aragekawaratake	5	20	9–10
Polystictus versicolor Fr. var. nigricans Lasch.	Kurokumotake	5	20	11–12
Polystictus flabelliformis Klotzch.	Uchiwatake	1	3	26–29
Pleurotus ostreatus Jacq.	Hiratake	2	8	1–2
Pleurotus japonicus Kawamura	Tsukiyotake	5	18	17–19
Psudocolus japonicus Penzig.	Sankotake	3	10	7–10
Psalliota (Agaricus) compestris (L.) var. silvicora Witt.	Oharatake	4	14	1–2
Russula aurata (With.) Fr.	Nishikitake	2	6	4–6
Russula emetica Fr.	Dokubenitake	1	1	7–9
Russula integra (L.) Fr. var.	Yoheiji	2	8	3–5
Russula purpurea Fr.	Murasakihatsudake	1	1	10–13
Russula fragilis Fr.	Kobenitake	1	1	1–3
Russula virescens Fr.	Aitake	1	1	14–16
Russula fragilis Fr. var. nivea Pers.	Shironokobenitake	1	1	4–6
Rhizopogon rubescens Tul.	Shoro	3	9	4–6
Scleroderma vulgare Horn.	Niseshyoro	4	14	7–9
Schizophyllum commune Fr.	Suehirotake	4	15	4–7
Sphathularia clavata Sacc.	Heratake	1	2	19–24
Strobilomyces strobilaceus (Scop.) Berk.	Oniiguchi	2	8	8–10
Tricholoma Shimeji Kawamura	Shimeji	4	13	8–10
Tricholoma fumidum Kawamura	Shimofurishimeji	5	19	12–14

Latin nam.	Jap. nam.	Gllos.	Pl.	Figs.
Tricholoma japonica Kawamura	Shiroshimeji	5	18	9–12
Tricholoma equestre Linn.	Kishimeji	2	7	26–28
Tricholoma Russula Schaeff.	Sakurashimeji	2	6	9–11
Tricholoma rutirans Schaeff.	Samatsumodoki	2	8	6–7
Tricholoma colossum Fr.	Samatsutake	4	15	1–2
Tricholoma personatum Fr.	Murasakishimeji	2	6	7–8
Tricholoma ustale Fr.	Kakishimeji	5	17	6–9